

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 第72号 2017年10月

甲南山岳部・甲南山岳会

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 72号

2017年10月

随 想

中高山岳部時代の山行	川村静治	2
山登りの人生	葉田順治	4

山行・紀行

タンザニア 物見遊山 2016	山本恵昭	7
2017年5月 立山 雄山	川野幸彦	15

追 悼

追悼 田邊潤君を偲んで	砂川彰雄	18
賀茶さん ありがとうございます	牧野 宏	19
田邊潤さんを偲ぶ	平井吉夫	20
田邊潤（ガチャ）さん略歴	越田和男	23
田邊潤（ガチャ）さんとの思い出の写真	越田和男	24
ガチャさん 有難うございました	柏 敏明	26

会員短信

総会・慰霊祭への出欠はがきから	(構成) 井上知三	27
-----------------	-----------	----

報 告

秋の集会	渋谷一正	37
定時総会	井上知三	38
慰 霊 祭	松下哲夫	39

ホームページから

山行と集い	(構成) 大森雅宏	40
海外写真日記		52
残しておきたい書き込みあれこれ		60

編集後記

塩崎将美	66
------	----

中高山岳部時代の山行

川村静治（新高昭40）

先日、那須で高体連安全登山講習会の最中に雪崩により8人が亡くなったのは記憶に新しいところです。今は登山から遠ざかっていますが、あらためて私が中学高校の時どんな山行をしていたのか思い出してみようというきっかけになりました。私が甲南中学高校の山岳部に入ったのは1959年のことで、幸い事故などはなく、当時の苦しくも楽しかったことを思い出すままに振り返ってみたいと思います。

一番最初に覚えているのは、神鍋山にスキーバスで行ったことです。三宮から甲南のバスだったと思います。スキーを履くのは初めてで、担ぐのもままならず栗栖野でバスから降りて北壁まで歩くのが遠かったのを覚えています。雪が少なく北壁でしか滑れなかったのですが、初心者に神鍋北壁からの滑降はこわかった。斜滑降で何とか降りて来たら、地元の人々は直滑降でビュンビュン滑っていました。

最初の春山は八方尾根、猿倉荘のスキー合宿で当時中1部員3名が参加しました。スキーの指導は山本三郎先生で、八方尾根の兎平で練習した後にはリーゼンをいきなり降るのに四苦八苦したのを覚えています。そのあと、細野から猿倉へ入り、中学部員は猿倉荘でスキー合宿をしました。雪がまだ多くて小屋の2階から入りました。高校の部員は猿倉の上の台地にテントを張っていました。大学の部員はもっと上の方にいました。



猿倉荘の前の中1部員



細野の徳栄さん宅あたり（広瀬様撮影）

最初の夏山は、立山・剣で雷鳥沢、剣沢、二股にキャンプ、立山は一ノ越から剣御前へ、剣は前剣から一般ルートを通り山頂に行き、長次郎谷をグリセードで降りました。前日に剣沢近くの急斜面でピッケルの使い方滑落防止の訓練を安井さんから徹底的に仕込まれました。二股から仙人池をへて阿曾原に下り、関電の軌道に便乗させてもらって樺平までトンネルの中を行き、最後はエレベーターでトロッコごと下降したように思います。

他の年、夏山はこのほか、中房温泉から燕、大天井、常念、蝶、上高地へ縦走しました。一日目

の登りがきつく燕を前に合戦小屋でもう登れないと思ったのですが気を取り直して登ったのを覚えています。他の年には有峰、太郎兵衛平、黒部五郎、三俣蓮華、小池新道、新穂高温泉への縦走をやりました。小見駅からトラックをチャーターして有峰まで行きました。黒部五郎や三俣蓮華は霧の中で山頂からの下りに道を間違しやすいことを実感しました。

春山は乗鞍の位ヶ原に2回ほど行きました。鈴蘭小屋からのラッセルがきつく2回とも1日目は冷泉小屋泊まりとなり、福島親父さんから晩飯作って待っていたのと言われたのを覚えています。位ヶ原の上の台地にテントを張りそこを拠点にスキートの練習をしました。肩の小屋までシールを付けて登り、そこにスキーをデポして、四つ爪のアイゼンをつけて乗鞍山頂まで登りました。



位ヶ原の小屋



位ヶ原台地のテント



乗鞍山頂

その後位ヶ原の小屋自体が雪崩の被害にあって移転したとのことで雪山に絶対安全はないということでしょう。

冬は中学では学校のスキー講習に行き、高校では黒菱小屋でのスキー合宿を2回ほどやりました。リフトで第2ケルンまで行って滑ったように思います。

岩登りも基礎的なことはやりました。ザイルの結び方、三点確保、ハーケン、カラビナの使い方、ビレー、懸垂下降などを先輩から叩き込まれ、岡本バットレスやロックガーデンのキャッスル、ブラックに何回か行きました。最近のスポーツクライミングのように片手でオーバーハングにぶら下がるようなことは想像もつかないです。

高校の時は兵庫県の高体連の登山大会に2回参加しました。生野の段ヶ峰、六甲山の逢山峡から桜谷、布引のコースで何百人も参加するので渋滞で後ろの方は常に待っているか走っているかという状態でした。他の高校の山岳部の人と触れ合う良い機会ではありました。

山登りの人生

葉田順治（新高昭 47）

まず初めに、甲南山岳会の皆様に自己紹介を兼ねて簡単にお話したいと思います。

私は中・高・大と10年間を甲南学園で過ごし、昭和47年に高校、昭和51年に大学を卒業した後、家業である木材業に従事した後、昭和61年にエレコム株式会社を興しました。OA家具メーカーとして創業した会社ですが、現在ではパソコンやスマートフォンの周辺機器、ヘルスケア関連商品やIoT関連商品などの開発、製造、販売を行っています。

私が甲南山岳部に所属したのは、たしか中学3年生から高校2年生の夏だったと記憶しています。今回、高校時代の南里先輩より原稿執筆のお話を頂きましたので、おぼろげな記憶を辿ってお話したいと思います。

卒業後はすっかり山から遠ざかっており、近年で私にとっての山との関わりは登山家の竹内洋岳さんの支援であろうかと思えます。

竹内さんは8,000m峰を専門に登頂されている日本有数の登山家であり、世界の8,000m峰14座全てに登頂された初の日本人として知られています。その内11座は無酸素登頂という超人です。

ダウラギリで8,000m峰全14座、最後の登頂を計画されていると聞いたのが2012年2月頃のことだったと記憶しております。某メガバンクの元副頭取から支援計画のお話をいただき、得意先、

友人と合計4名でスポンサーとなり、遠征の応援をさせて頂くことになりました。

ただ当初、肝心の発案者である副頭取から、なかなかスケジュール連絡が無く(?)竹内氏の出発時期が遅れ、登山時期を失してしまうのではないかと心配しました。その件で副頭取にお電話し、「早くしないと、5月からはモンスーンで登れなくなりますよ。」と申しましたところ、「葉田君、なぜそのような事を知っているのか?」と聞かれ、「実は学生時代に山岳部で」というようなお話をしました。最終的には慌てて皆で支援を進め、竹内さんを送り出しましたわけでありませぬ。

その後、無事に竹内さんは14座最後となるダウラギリを無酸素登頂成功されましたが、私も『最後の事には何かが起こるのではないか』と心配していたとおり、下山中に8,000m付近で、無酸素でビバークされたそうです。たまたま仲間が救援に来て助かったという話も伺いました。正に死と隣り合わせでの14座登頂成功だったんですね。

かつてのへっぽこ登山家の私からは想像もつかない8,000m級という登頂のお話にワクワクし、想像するだけで楽しかったです。

体脂肪率わずか6~7%。無駄な脂肪はもちろんですが、無駄な筋肉も竹内さんにはありません。登山に必要な筋肉しかつけておらず、一度

プロ野球の始球式をなさった時には、それだけで筋肉痛になったと仰っていました。今思うとバカなことを聞いたものだと思いますが、日頃はどこでトレーニングをされているか聞いたところ、「日本はおろか、世界でもなかなかトレーニング出来る場所なんてありませんよ。」と笑っておられました。確かに、4,000m峰も無い日本で出来ないのはもちろんのこと、8,000m峰のトレーニングは8,000mでしか出来ない。次々と8,000m峰に挑まれたのは、あくまでも実地トレーニングであり、その結果としての14座登頂だったのかもしれません。

さて、私自身の高校時代の山岳部での一番の思い出は、乗鞍での春山合宿です。当時、井上 靖 著『氷壁』が売れており、そのせいか高校生のロッククライミング、冬山登山は禁止で春山登山となったと記憶しています。春山とは言え、氷点下15℃という寒さの中、みんなでピッケルを使ってグリセードの練習をしたり、雪洞を掘り、その中で身体をくっつけあって寝たのも懐かしい思い出です。

あの頃、私の体重は60キロ強というところ。自分の体重とさほど変わらない荷物を担ぎ、スキーを横に挿し、雪道をラッセルしながら、どうやって山を登ることが出来たのか、今思い返すと不思議に思います。

最近ご逝去された田辺先輩や、竹中先輩には数回、山に連れて行っていただきました。大変ご親切にしてくださり、まさに、古き良き甲南

のテイストを持たれた大先輩方々だったのだろうと思います。田辺先輩は南里先輩に「葉田君は何かやる男だ。」と言って下さっていたそうですが、この寄稿が間に合わず、お読みいただけなかったのは寂しい限りです。

また、世の中にこんなに良い人がいるのか？と思うほど可愛がっていただいた横山先輩が経営する六甲道の喫茶店では高校時代にアルバイトもさせて頂きました。

こうして昔を少し振り返るだけで、親切にして下さった先輩方の顔が次々に思い出されます。この場をお借りして、御礼を申し上げたいと思います。有難うございました。

他には国体競技として開催された六甲縦走登山の際、集合場所の神戸駅近くの喫茶店にニッカポッカを履いて行ったところ、「可愛い土方さんね。」と声を掛けられたことも懐かしい思い出です。

のほほん和中高大と甲南で過ごした私ですが、卒業と同時に「上場企業をつくりたい。」という熱望にかられ、社会人になってから50歳前後まではいきなり暴風雨、猛吹雪、雪崩にも巻き込まれたような大荒れの人生でした。家業の立て直しに東奔西走した20代、現在の会社を立ち上げた30代、倒産の危機を経験した40代、色々ありました。それでも、学生時代に培った甲南山岳部スピリッツのおかげでしょうか、「あの頂を目指すためには下を向いてコツコツと距離を稼げ」とばかりに一回り下の社員たちと共に100億、200億、500億と徐々に売上げという名の山を登って

きました。50歳前にしてようやく人生の猛吹雪、濃霧も収まり、平成18年にJASDAQ証券取引所に上場、平成25年に東証一部に上場しました。

ビジネスの上の感覚では今期1,000億という6,000m級の山に挑んでいる感じです。まだまだエベレストはこれからです。なぜ、そのように売上伸長を目指すのかと問われれば、をジョージ・マローリーではありませんが、そこに山があるから・・・という心境です。これはやはり、山岳部で培われたスピリッツなのかもしれません。

実生活では最近左膝を痛めてしまい、みんなから誘ってもらっている富士登山や、夫婦で行きたいと思っている屋久島行きも適わない現状です。今回、この寄稿を機に山への想いが再燃

してきました。来年の1月には膝の手術を受け、富士登山を目指し、また山登りを再開したいと意欲を燃やしています。

ただ、登山と同じで人生も登るだけではありません。後進に登山のやり方も教えねばなりませんし、そろそろ登山で最も難しいと言われる下山の準備も始めなければならない年齢になりました。後半になんとか帳尻の合ってきた人生ですが、これからは社会に何か貢献、恩返しをしたいと思っております。

この度はこのような貴重な機会をいただき、有難うございました。甲南山岳会の皆様のご健勝と、会のますますのご発展を祈念しながら、筆を置かせていただきます。有難うございました。



エレコム開発部門の皆さんと 日経ビジネスONLINE 2016.1.5より 中央が葉田会員（編集）

<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/report/15/278209/010400013/>

8月に予定していた仕事がキャンセルになり、急に長期休暇が取得可能になったのが7月初め。めったにないチャンス、何かワクワクできるようなことはないかなと考えていて思いついたのは、一度は行ってみたかった野生の王国アフリカ訪問。どうせなら、キリマンジャロに登って、野生のゾウを見にサファリツアーへ。

1. 準備、そしてタンザニアへ

今から準備して間に合うかどうかわからないまま、ネットを最大限活用して情報収集。キリマンジャロ登山は山小屋完備のマラングルートが一般的であるが、植生が豊かで変化に富むマチャメルルートにこだわった。国内からのツアーだと日程も予算も合わない。日本語可能な現地ツアー会社にメールで交渉するが、日本人向けは高い。さらに大統領が代わって急に多額の税金がかかることになったそうで、なかなかの高額。

とりあえず、黄熱病の予防接種を受け、富士山で高所トレーニングを済ませて、飛行機のチケットの値動きチェックを続ける。イスタンブール経由でトルコ航空の安いチケットを見つけるが、クーデター事件で断念。結局、カタール航空のドーハ経由キリマンジャロ国際空港までの往復航空券を購入し、到着日と出発日の宿を予約して、見切り発車。日本国内でのタンザニアのビザ取得は間に合わず、空港の入国時に手続きすることにする。

一応連絡方法もほしいかなと、格安スマホを出発3日前に大阪の営業所で即日交付してもらい、

携帯電話も使ったことがないことを伝えたくて使い方を一から教えてもらう。説明を一通り受けてから「ところで、最初に電源をどうやって入れるの」と聞くと店員のお姉さんに笑われた。

7月28日 伊丹空港を夕方発。大森さんが見送りに来て下さる。いつもながらありがたい。羽田空港で時間待ちの間に、ラインで娘たちから写真の送り方やWi-Fiのことを教えてもらう。

7月29日 早朝、ドーハ空港で乗り換え、14:30キリマンジャロ国際空港へ。ビザなし入国手続きのカウンターは大混雑で1時間以上待たされるが、ビザ代\$50払って無事入国。タクシーでキリマンジャロ山麓のモシ村、予約しておいたハイビスカスB&Bに直行。ハイビスカスB&Bは郊外にある落ち着いた宿である。何気なく飾ってある絵のセンスが良い。

歩いて街に出て、まずは旅行社探し。あらかじめ目星をつけていたキリクライマーズ社へたどり着く。キリマンジャロ登山マチャメルルート6日間ツアーが\$1270、サファリツアー3日間\$480とまあまあ格安。2つをセットにして値切り交渉をする。ツアー後の宿代2泊も含めて\$1620で契約成立。カードで払おうとしたら、バカ高い手数料を請求されたので、キャッシュで払う。

2. キリマンジャロ登山

7月30日 熱帯フルーツ沢山の朝食を終え、9時過ぎに迎えのガイドの車に乗る。チーフガイドは

モスリムのアスマニ、サブガイドはクリスチャンのサイモン。案内された車には、もう一人日本人が乗っていて、2人パーティにされるとのこと。この独りで来ていた60代の方、登攀クラブ蒼氷の代表の戸田さんでなかなかの強者。中東で仕事をされて、その合間にケニヤ山に行つて、キリマンジャロにも来てみたとのこと。いろいろな話に登場するお仲間は、山の雑誌に出てくるようなクライマーの面々。なんか気が合い、下山後は私と同じサファリツアーに申込まれ、結局10日間もご一緒することになる。英語が堪能で、いろいろ助けていただく。

車は、肉や野菜など買出しをして、10:50登山口のマチャメゲート1490mへ。入場手続きやポーターの荷物計量を済ませて、12:00から歩き始める。森の中の林道を歩きながら、ガイドがいろいろな花の名前やスワヒリ語の片言会話を教えてくれる。「マンボ(こんにちは)」「ポア(やあ)」。ポーターからサブガイドになって、チーフガイドになるのは経験も必要で大変とのこと。その分、ガイドはプロとしてのプライドを強く持っている。

そうこうするうち、マチャメキャンプ2815mに16:40着。歩荷もテント設営も食事もお任せの大名登山。夜中にトイレに行くと、暗闇に人の気配。ライトで照らすとライフルを持ったレインジャーだった。ヒョウが出ることがあるそうで徹夜の番をしているらしい。

7月31日 8:20発、灌木の中の道、木々も低くなり緑の裾野の広がりが見える。この乾燥した地域で、雪を頂くキリマンジャロの裾野はその水の恩恵を受け緑豊かである。歩きながら、今日のスワヒ

リ語、「アサンテ(有難う)」「カリブ(どういたしまして)」。12:00に乾燥した草原のシラキャンプ3750mに到着。時間は早いけれど、今日はここまで。ランチを食べて、高所順応のためレモシヨルートのキャンプまで散歩。高度障害が出て、ちょっと息苦しく、頭もボーとなるときがある。夜中、何度か下痢でトイレに。ドタバタ準備に体がついて行かないのかもしれない。

8月1日 8:00発 荒涼とした乾燥大地を歩くが、調子が出ない。「ポレポレ(ゆっくり)」と声がかかる。ラパタワーという岩峰4600mの下でランチ。氷河をいただいた山頂部南面を見ながら、キリマンジャロの裾野の台地を反時計回りに迂回して下っていく。途中、ジャイアントセネシオという特徴的な植物が林立する谷を下って、バランコキャンプ3960mに15:00着。腹が張る感じで、下痢が続く。

8月2日 バランコキャンプからは、少し岩場を登って、さらに迂回気味に道を辿り、カランガキャンプ4035mを通り過ぎて、バラフキャンプ4673mへ。山頂部の絶景を見ながら、気分は高揚気味。食欲なく下痢もひどくなるが、水分だけは意識して飲む。「ハクナマタタ(心配ない、何とかなる)」

8月3日 ヘッドランプを点けて0:00出発。呼吸が厳しく酸素を吸えていないからか、寒い。毛糸の手袋だけでは指先が冷たくて、オーバーミトンをつける。前に行くサブガイドのサイモンの足元だけを見て、ひたすら登る。ステラポイント5756mを経て、山頂とされているウフルピーク5895mに6:30到着。アスマニの計算通りちょうど日の出の時間となる。太陽と反対側の雲海にキリマンジャロの

影が映って幻想的である。氷河も思っていたより立派である。写真を撮るが、息が上がってフラフラ。しばらくして、ひたすら下りバラフキャンプ10:30着。朝はあれほど寒かったのに、太陽が昇ると焼かれるように暑い。40分ほど昼寝し、さらに高度を下げる。ハイキャンプ3950mを通過して、ムエカキャンプ3100mへ。相変わらず食欲はないが、高度を下げると下痢は少し治まる。

8月4日 樹林帯をしばらく下って、ムエカゲート1640mへ。車でモシ村に戻るが、山麓を辿る道沿いにはコーヒー園が広がっている。

旅行社ではガイドへのチップは\$100で良いといわれていたが、それは最低料金とのことみたい。ガイドのアスマニと話をしていると、日本で考えている旅行社とはだいぶ仕組みが異なるようだ。旅行社は客を紹介する斡旋業みたいな感じで、客が旅行社に払った金はほとんどガイドには渡らないらしい。客の紹介を受けたガイドは、コックやポーターを雇い、食料を買い付け、自分の裁量で登山をコーディネートするそうだ。そして客が満足度によって支払うチップでそれらの費用を賄っているらしい。不調のサポートを献身的にしてくれたこともあり、結局二人で\$400のチップを支払った。食料・燃料・装備代、ガイド2人、コック1人、ポーター9人6日間の給料としては妥当な所か。

旅行社指定のキリマンジャロバックパッカーズという安宿に転がり込む。狭いけれど、一応個室。クリーニング受付もあるが、共同シャワーで洗濯しまくり部屋に干す。

戸田さんが、登頂記念に焼肉屋へ誘ってくれる。店前で焼かれているインバラの骨付きバラを注文

し、かぶりつく。かたいけれど、噛んでいると旨みがしみだしてくる。乾いた喉にビールを流し込むと、もう天国である。

3. 野生動物見学サファリ

・タランギーレ国立公園

8月5日 いらない登山用具を宿に預け、薄暗いロビーで5:00に迎えに来るはずの車を待つ。1時間ほど遅刻してやってきたドライバー兼ガイドは、遅れを取り戻すかのようにアルーシャの町までランクルをぶっ飛ばしていく。所々舗装されていない幹線道路は、車が通ると濛々と褐色の埃を舞い上げる。アルーシャで、ベンとルーシーというフランス人カップルを乗せて、4人でのツアーとなる。さらに埃道を進むが、車の中でぐっすり寝てしまった。目覚めると、そこはタランギーレ国立公園の入口だった。川沿いに設定された動物保護区である。乾季の今はここのような水場のあるエリアに野生動物が集まってくるそうである。枯れた草原を走ると、急にゾウの群れに出くわす。車を止めてオープンルーフから観察。我々の存在など全く気にせず、次々と現れてはゆっくりと立ち去っていく。子象も含めて、30頭くらいの群れだった。水分を含むバオバブの木の皮をはがして食べるとのこと。シマウマやヌーの群が草を食み、キリンが闊歩していく。遠くの川辺にライオンが寝転がっている。テレビでしか見たことのない世界が目の前に広がっている。広場でランチ。地元の小学生が遠足で訪れているようで、大賑わい。夕方、車は今宵の宿、ファナカキャンプサイトに着く。キャンプサイトと言っても、レストランもプールもある宿である。ただし我々のような貧乏旅行者は、中庭のテントで

宿泊である。ヨーロッパからの旅行者が多く、日本人は我々2人だけであった。

ガイドの紹介でマサイ族の村、マサイマラに行ってみることにする。観光地化したマサイマラではないので、村の入口でしばらくガイドが村に入る許可を交渉。リーダーの若息子が案内してくれることになった。一夫多妻でこの村のリーダーである父は5人の妻がいるという。それぞれの奥さんに一軒の小屋をあてがって、日によってそれらの小屋を回るそうだ。小屋の中は炊事する焚火場と牛の毛皮でできたベッドがあった。十代前半かと思われるような妻も赤ちゃんを抱えている。婆さんや子供たち、若者を含めて家族で共同生活を送っているそうだ。あまり子供たちを学校に通わせることもなく、独自の文化を保っている。町の一般的な仕事に就くことは難しく、放牧が主な仕事とのこと。ただその勇猛な性格を役立てて、ホテルなどのガードマンに就くマサイもいる。

・マニヤラ湖国立公園

8月6日 朝から車で近くのマニヤラ湖国立公園へ。マニヤラ湖はアフリカの台地を引き裂く大地溝帯にできた巨大な塩湖で周囲の崖から湧き水が流れ込むため、それを求めて野生動物が集まってくる。湖水には、フラミンゴやカンムリヅルが忙しく騒いでいる。移動中のヌーの群れに出会った。1列になり、ゆっくり歩いている。300頭くらいいるだろうか。草原のかなたまで行列の黒点が続いている。林道の奥の広場にはカバ見学用の栈橋が用意されている。遠くの湖面に、10頭ほどのカバの頭が見える。湖畔にはバッファローが悠然と佇んでいる。カバとバッファローの頭骨が転がっ

ていたので、遠足の地元中学生と抱えて記念撮影する。

夕方、そろそろサファリも終了という頃に、前に車が止まっている。何をしているのかとっていると、興奮気味の1頭のゾウが道を塞いでいた。前の車のタイヤの匂いを嗅いだりしながら、耳を立てて威嚇している。そのゾウがこちらに近づいてくるとガイドの表情が一変し、「しゃべるな」「物音を立てるな」「動くな」と次々と指示が出る。ゾウは我々のすぐ横に来て、しばらく睨んで去っていった。とてつもない迫力である。その間ほんの数秒のことであろうが、とても長く感じた。あとで聞いたガイドの説明によると、多くのゾウは車に乗っている人を意識しないが、たまに興奮したゾウが攻撃モードになると車をひっくり返したりするそうである。

夜は、再びファナカキャンプサイトへ戻る。

・ウゴロンゴロ保護区

8月7日 朝、約束の10:00になってもガイドが現れない。なんかガイド同士でもめている。結局、他の車の客を押し付けられたようで、良くしゃべるアイルランドのお姉さんと物静かな台湾系アメリカ人の女子大生を追加し、6人ぎゅうぎゅう詰めとなる。ウゴロンゴロ保護区へ行くが、人気が高く出遅れたこともあって入口のゲートは順番待ちの車列ができて、時間ばかりが過ぎていく。フランス人のルーシーが切れて激しい口調でガイドに迫ると、彼は渋々事務所に行き、なぜがすぐに入ることができた。賄賂でも使ったのかも。

巨大なクレーターの底に水を求めて野生動物が集まるそうであるが、急斜面が苦手なキリンだけはクレーターの崖を登り下りできず、ここにはいない

そうだ。車はジグザグに急斜面を下り、クレーター底の草原に降りた。道路際にマサイが現れるが、ガイドからカメラを向けないように注意される。観光地のマサイは何かとトラブルが多いようだ。

クレーターの底は野生動物の宝庫であった。草原にはシマウマやヌーが見渡す限り群れている。確かに群れているシマウマの縞模様は錯覚を起こし、どれがどのウマか、どっちが頭なのか、訳分からなくなってくる。止まっている間に、ヌーの群れが車を取り囲みエンジンをかけても逃げようとしない。ガイドから、すぐそばにいるヌーの背中をたたくように頼まれる。窓から手を伸ばして、背中にタッチするとゆっくと群れが移動し、道を譲ってくれた。

ガイドが急に車を止めて興奮気味に指さす方向を見るが、何も見つけられない。しばらくすると、すぐ近くでライオンが体を起こして歩き始めた。よく見ると6頭もいる。枯草の中に伏せて寝ていると全く見つけられない。ちょっと先では、バッファローの生々しい残骸をジャッカルが食っている。ライオンがさっき倒した後のおこぼれにあずかっているようだ。車から降りて小便するのが、怖くなった。

休憩所近くの池にはカバがいて、耳目鼻だけを出してこちらを窺っている。近くで写真を撮ろうとじっとカメラを向けていると、潜ったり目を出したりを繰り返しながら徐々に近づいてくる。「一番危険な動物はカバだ」という忠告を思い出し、早々に車へ逃げ込む。

夕方、クレーターの丘の上にあるキャンプ場に着く。ベンとルーシーはもう1泊して、セレンゲティ

国立公園に向かうらしい。3日間ですっかり仲良くなった2人と別れ、我々はランクルからワンボックスへ乗り換えてモシ村へ戻る。不安だらけの暗闇の中、途中のどこの村かも分からない駐車場で言われるままにタクシーに乗り換える。やっとのことで、22:40にモシ村キリマンジャロバックパッカーズへ到着。ぎりぎり閉店前の近くのレストランを教えてもらい、やっとな夕食にありつけた。

4. 帰国まで

8月8日 予約していたハイビスカスB&Bへ戻り、シャワーと洗濯三昧。昼過ぎ、再び戸田さんと合流。キリマンジャロコーヒー発祥の地、ユニオンカフェで優雅にカフェオレを飲んで、町中ぶらぶら買い物。そして、また飽きずにインパラ焼肉屋へ。明日ローカルバスでケニアに戻る戸田さんとバス停へ下見に行くが、荷物と人で騒然としている。

8月9日 スーパーで買い物をして、モシの村をぶらつく。余裕を見て昼過ぎにタクシーで空港へ行くと、早すぎてほとんど人がいない。残りの現地通貨タンザニアシリングでビールを買おうと思ったが、少し足りない。諦めてベンチに座っていると、店のお姉さんがビールを持ってきてまけてくれた。

17:30飛行機に搭乗。窓の外には、キリマンジャロが夕日に照らされて輝いていた。

8月10日 ドーハで乗り換え、深夜に羽田空港へ無事帰国。国際線のベンチで夜を明かす。

8月11日 早朝、伊丹空港へ。日本も暑い。

5. 終わりに

子供の頃、「野生の王国」というテレビ番組があり、そこでアフリカの野生動物の生態を紹介するパーキンス博士にあこがれていました。生き物好きが高じて生物学を専攻するも、諸般の事情でパーキンス博士のようには成れず、子供の頃の夢は夢のままお預けです。でも、一度は行って見たかった

アフリカに、今回足を踏み入れることができ、夢のかけらに少し触れることはできたのかもしれませんが。

そこそこ歳をとってくると多少のわがままも言って、これからも可能な限り「一度は行ってみたい」を「行って見た」に変えていきたいと思う今日この頃です。

アルバム



リパタワーへの登り



ジャイアントセネシオの群落



ジャイアントセネシオとキリマンジャロ



山頂氷河



キリマンジャロ山頂



ムエカゲートに下山

右サブガイドのサイモン、左ガイドのアスマニ



タンザニア国立公園のバオバブの木



タンザニア国立公園のゾウ



マサイの母子



マニヤラ湖国立公園 カバの頭骨



ウゴロンゴ保護区のヌー



ウゴロンゴ保護区のシマウマ



ウゴロンゴ保護区のライオン



タンギーレ国立公園に遠足のチビ子
スクールバスは日本の幼稚園バス



タンギーレ国立公園のキリン



焼肉屋 注文に応じてなたでぶった切ってくれる

2017年5月 立山 雄山

川野幸彦（昭56理）

GWに雄山へ登ってきました。悪天に遭遇し久しぶりにビバークしました。非常に寒かったです。立山には、学生時代に2回（1年の5月・4年の11月）。社会人になってからは、何れも十数年前の5月に2回登りました。特に十数年前には、雄山を過ぎた辺りで滑落する方を見つけ救助しました。私にとっては印象深い山です。以下報告です。

・4月28日（金）大阪 ⇒ 富山（夜行バス）

梅田を21:50発の夜行バスで富山へ。6000円也。ほぼ満席である。人生初の夜行バス。3列シートだが、首が不安定で熟睡出来なかった。何回か座席からずり落ち、ムチ打ち症になりかけた。また、時間調整のためのんびり走り長時間駐車もあった。普通に走ると真夜中に目的地に到着するからであろう。

・4月29日（土）曇り → 吹雪

富山 ⇒ 室堂 ⇒ 雄山（ビバーク）

5時過ぎに富山駅前に到着。曇っている。地鉄に乗り換え立山に向かう。切符売り場で乗車券を買おうとしたら、数名の地鉄職員の方が私をじっと見つめ、突然、中国語で話し掛けてきた。「ワシは、日本人でっせ」と返答すると「申し訳ない。失礼しました」。私が、何も言わずに近づいたので中国人に見間違っただけらしい。以前、東京のスーパーでも間違われたことがあるが、こんなところでも同様に驚いた。改めて周りを見渡すと観光客のほとんどが外国人であった。これでは仕方ないか。立山駅・美女平を経

て室堂へ到着。ここでも大半が外国人（中国人）であった。皆さん元気がいい。賑やかである。今や日本の観光は外国人によって支えられているのだと痛感した。

連休初日の室堂は、観光客・スキーヤー・登山客で混雑していた。県警に登山計画書を提出。予定では、立山三山と奥大日岳を登るつもりだったので、「奥大日方面はまだトレースがなく、雪庇も例年より大きい。また、今日は昼頃より天気が崩れるので注意するように」とのアドバイスを受けた。朝食代わりに立山そば（750円）を食べ雄山を目指す。



悪天までの時間が数時間なので、立山三山巡りは中止して雄山のみを登ることにした。一ノ越までは、トレースもしっかりしていて風もなく快適。ここからは、風が急に強くなったが、視界も良いので頂上に向かった。ところが、頂上直下で天候が急変し吹雪になった。無理をして頂上には立ったが、ここでは猛吹雪。視界が

50m以下。天気予報通りになった。やられた。悪天につかまってしまった。この時、これまで前後していた女性に声を掛け一緒に降りようと誘った。後に知ったがこの女性は“浩子さん”という方で、名前が妻と同じ(同じ漢字)で、年齢は私の長男と同じで、更に息子さんも孫と同じ年であった。共通点が多い。一方、これまでの浩子さんの登りを観ていたが、雪面歩行に慣れていないようだった。明らかに雪面への蹴りこみが甘く、アイゼンもフラットに置いていなかった。



頂上から二人で直ちに下降に移ったが、視界約30m・瞬間風速20m以上でルートが分らず諦めた。私は、頂上の小屋の脇で天気待ちのビバークを選択したが、浩子さんは、みくりヶ池山荘に御主人と息子さんが待っているというので降りて行った。ビバーク地は、頂上小屋の南側で風が避けられる所がありツェルトを被った。衣服を着こみザックに腰を下ろすと落ち着いた。暇なので甲南ACの皆さんにLINEを送った。実は、朝から皆さんにLINEで行動を伝えていた。そうこうしていると、下降したはずの浩子さんが戻ってきた。「下降を諦めてビバーク

する。ツェルトは持っているので別の場所を探す」と言う。しかし、しばらくして再び戻ってきて「ツェルトの中に入れてしてほしい」と言う。とにかく中に入ってもらった。話を聞くとビバークは初めてで、先ほどの下降の際にスリップしたらしく悲壮感が漂っていた。私は、悪天候は長続きせず、夕方には回復すると予想していた。また、幼なじみからのLINEで雲の動きを知り、更に、これまでの経験から5月の悪天は半日程度で長続きしないと思っていたからだ。しかし、吹雪がおさまったのは夜に入ってからであった。一度、日没直前の18時頃に下降に入ったが吹雪に押し戻され再ビバーク。LINEで皆さんに連絡しようとしたが、昼間まで通じていたものが、どういうわけか“圏外”になった。結局、浩子さんの電話が通じ、これを使って嫁ハンに連絡し、大森さんと山本にも無事である旨を伝えた。夜に入り、急激に気温が低下しほとんど眠れないままに朝を迎えた。5月でも3000mの稜線がこんなに寒いとは。また風も強くてコンロを使えないのも辛かった。風が弱まったときは本当にホッとした。

室堂9:40 → 雄山12:00

・4月30日(日) 晴れ 雄山 ⇒ 室堂

風は強いが快晴である。4時頃に温かい雑炊を食べ、日の出を待って出発。御来光が美しい。寒さに耐えたご褒美か。ビバーク地から30分で一ノ越。ここで浩子さんと別れた。みくりヶ池で温泉に入ってから帰るとこのと。明日から仕事らしい。黙祷後、帰路に着いた。室堂では、心配を掛けた皆さんにLINEをした。二日間寝不足で帰りのサンダーバードでは爆睡だった。明日からは、二人の孫の孫守りである。連休は

始まったばかりだ。疲れた。
雄山5:10 → 室堂6:30



(ビバーク地点)

(付) 久しぶりの雪山でのビバークであった。非常に寒かった。GWでも吹雪の3000mがこれほど寒いとは。強風でコンロが使えないので辛かった。また、ツェルト内でコンロに火を付けようとしたら、ライターとマッチが瞬時に湿って使い物にならなかった。防水マッチを持参すべきであった。さらに、断熱マットとロウソクを忘れたのも誤算であった。直接、強風がツェルトを通して直接身体に当たるので寒かった。断マがあればもう少し快適だったかもしれない。ロウソクもなかった。一晩中、ヘッドランプを点

けていたが、ロウソクがあればこの火で温かいものを作り飲んだら暖まっただろう。

来年に還暦を迎える。山登りも控えるべきかもしれない。体力は確実に落ちていて、踏ん張りがきかない。今後は「夏山だけかな」などとも思うが、来年のGWは、再度、今回のコースを辿ろうとも考えている。

最後に、皆様にご心配をお掛けし申し訳ありませんでした。この場をお借りしてお礼とお詫び申し上げます。

* * * * *



(4月30日 午前5時28分の雄山
室堂ライブカメラ)

追悼

追悼 田邊潤君を偲んで

砂川彰雄 (昭32経)

6月5日の朝、田邊君の御長男の照さんからの電話で「父がなくなりました。癌でした」。

言葉が出なかった。まさか賀茶がそんな早く逝くなんて。

彼との出会いを思い返してみると、甲南大学に入学して大学ではヨットでもやろうかなあと考えていた時、小学校4年生まで在籍していた甲南小学校の同級生であった宮本君に会い「山岳部に入れ」と部室に連れて行かれ、入部させられてしまった事により賀茶という無二の親友を得ることが出来たのです。

当初、大学山岳部は予算もなくハーケン1枚持たない山岳部でした。したがって備品も高校山岳部に頼る有様。

高校は3年生の賀茶と1年生の福永(兄)、後は中学生の広瀬、平井、牧野、山下、藤安、塩田、柏木、武田、ラグビー部から転部してきた越田、福永(弟)と大所帯を一人で統率してゆくのは大変な事でした。

そこで、大・高・中、合同の合宿を行い、大学は装備を使わせて貰う代わりに中学生の指導の手伝いをするといった合宿を春山・冬山で行いました。

次は思い出深い大切な高遠の事を少し。

高遠の土地を購入した経緯は柏氏の追悼文に書いた通りですが、一番に家を建てたのは賀

茶でした。ベランダ付の潇洒な2階建てで早速泊りに行きました。その後、小生も薪ストーブを置いた小さな2階建てを建てました。

賀茶は2度に分け増改築し立派なコテージに仕上げていました。庭の方も花壇を作り実のなる木々を植え、バーベキューテーブルを作り、柏氏の土地へコスモスを一面に咲かせたり、随分楽しみました。彼はもっともっと楽しみたかった事と思います。

今は先に逝った仲の良かった同級生、フルイチの途切れない「ホンデナ！！」に付き合っているのだろう。

心よりご冥福をお祈り致します。



平成27年4月 総会時のスナップ (編集)

賀茶さん ありがとうございます

牧野 宏 (昭36経)

中学3年の1月、高2の賀茶さんの面接を受けて入部、早速春の双子尾根、杓子岳合宿に連れていってもらいました。

同期の仙吉(L)、ポン、しんし、が一緒でした。

猿倉から小日向コルまで、生まれて初めてスキーを履き、いきなりボッカ訓練でした。行きはシールをつけ、ただただ足元を見て登りました。

やがて合宿が終わり、撤収された荷物の配分を受け下山になりました。

私の未熟なスキーに加え、たっぷり水気を含んだ荷物の重量に耐えきれず、幾度も転倒を繰り返しました。

その内スキーが外れ、靴が脱げ斜面を流れて行きました。

雪の中に残された私は、起き上がる気力も体力もなくなっていました。

唐突に、これが死ぬということだと過去に意識したことのない思いがよぎりました。今までに出会った人々が走馬灯の様に浮かび、死を覚悟しました。

しばしのち、静寂を破る「ドン、なに泣いとんねん」と賀茶さんの大きな声。

スキーなどを回収してくれて、私のキスリングをひょいと前にかけて私は空荷で猿倉までたどり着きました。

下山するにつれて段々と雪解けが進み、やさしい早春の草花が咲き、小川のせせらぎが聞こえてきました。

賀茶さんの偉大さに助けられ、ただただ嬉しきでいっぱいでした。

ついさっきまで雪まみれになって、山には二度と来ないぞと決心していましたが、賀茶さんと一緒ならまたこようと思いました。

卒業後も柏(兄)と私に、商業と産業との違いを知るようにと田邊空気機械製作所の広い工場まで連れて行ってもらいました。

賀茶さんから受けた薫陶は枚挙に限りがありません。

賀茶さん本当にありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。

田邊潤さんを偲ぶ

平井吉夫（新高昭32）

田邊潤さんが亡くなりました。というか、ガチャが逝ってしもた。またひとり、私の人生劇場の立役者がいなくなってしまうました。私の甲南中学・高校時代、十二歳から十八歳までの、生涯で最も重要な精神的・社会的な人格形成期は、ガチャ抜きには語れません。

その時代の回想記を、かつて私は山嶽寮に寄稿したことがあります（No.39、創立50周年記念特別号〔1982年〕。創立75周年記念号〔2001年〕に再録）。題は「旧制・新制の間に一昭和20年代後半期・過渡期の甲南高校山岳部一」とありますが、これは当時の編集長・越田和男君が付けてくれたもので、私はこの原稿を「田邊時代」と題して提出しました。

この二つのタイトルからわかるように、これは学制改革によって旧来の甲南高校山岳部の存亡が問われた時代に、二年も卒業を遅らせて奮闘したガチャへのオマージュであり、その指導下でそれなりにレベルの高い登山を続けた私たち下級生の苦闘の記録です。その文章の末尾に私は、「いま自分が知っていることの五分の四は、中学・高校時代に覚えたことだ」と書きました。

この「五分の四」のかなりの部分はガチャから習い覚えたものです。さまざまな登山技術はもとより、難関に立ち向かうときの心構え、攻めるか逃げるかの見きわめ、浮石をだましましホールドにする呼吸、死と隣り合わせの状況への対

処、団体・組織の行動における連帯と責任……等々、その後の社会生活でヒントになったことがいっぱいあります。

歌もガチャからたくさん教えてもらいました。戦中戦後の文化的空白のせいか、私が昭和26年に入った頃の山岳部は、キャンプをすれば歌を唄いましたが、いわゆる「山の歌」はほとんどなく、唄うのはたいていワイ歌でした。これはこれで面白かったけれど、ある日、どこかで山の歌を仕入れてきたガチャが、「おまえら、ワイ歌ばかり唄とてないで、こういう歌を唄え」と言って、部室の黒板に歌詞を書き、私たちに歌唱指導を始めたのです。

最初に教わったのは「山の主から手紙が届いた」で始まるヤンキードゥードゥルの替え歌「アルプス一万尺」でした。その次は「雪山讃歌」、さらに「北帰行」の山バージョン、法政大学山岳部部歌「エーデルヴァイスの歌」、早稲田の「北アルプスの犠牲」、立教の「ナンダコットは二万尺」、さらには「安曇節」や「野沢温泉小唄」と、甲南高校山岳部の音楽文化は一変し、香りの高いものになりました。

ロシア民謡もガチャは大好きでした。おかげで私は「ステンカラージン」や「赤いサラファン」の長い歌詞を今でも全曲通して唄えます。「カチューシャ」や「泉に水汲みに来て」などソビエト歌

曲もいろいろ習いました。その下地があるので、高校三年生になって共産党の歌声運動にはまってしまう私は、歌唱の指導を務めたりしました。

ドイツ語の歌を教えてくれたのもガチャです。最初に習ったのは日本語訳「さらば、さらば、わがふるさと」で知られる「Muss i denn」でした。その次はガチャお得意の「ただ一度の機会」。映画『会議は踊る』でウイーンのお針子に扮したりリアン・ハーヴェイが唄う主題歌です。中学生の私も「Wein ich? Lach ich?」と意味もわからずに唄いました。今でもふっと鼻歌に出てきます。

そうそう、ガチャから習った歌には「アルト・ハイデルベルクの歌」もありました。その一番はこういう歌詞です。

遠き国よりはるばると
ネッカーの川辺懐かしく
岸に来ませしわが君に
今ぞ捧げんこの春の
いと美しき花飾り

マイヤー・フェルスターの小説『アルト・ハイデルベルク』の中で、下宿の娘ケーティが王子カール・ハインリヒを初めて迎えるときに詠んだ詩で、この小説の訳者・番匠谷英一の名訳です。原作には一番と二番しかないのに、日本人が三番、四番を創作して付け足し、曲を付けて唄ったのが「アルト・ハイデルベルクの歌」で、かつては全国の旧制高校で広く唄われたそうです。

あるときガチャはこの詩のドイツ語訳に取り組みました。原作がドイツ語なんだから、考えてみればヘンな話ですが、当時は原書を手に入できなかったのでしょう。たしか柳澤正さんの共同作業だったと思います。できあがったドイツ語版を何度も聞かされましたが、これは語呂が悪くてあまり感心しなかったなあ。

当時の学生言葉や登山用語がドイツ語だらけだったこともあります。こんなふうにガチャの薫陶を受け続けた私は、高等科に上がったらドイツ語を学ばなければならぬと思いつき、山岳部顧問の石渡均先生に師事し、大学入試もドイツ語で受験するぐらいの力は付けました。それがいつのまにやらメンの種になったのですから、私がガチャから受けた恩は計り知れません。

ひとつだけ、ガチャに習って損をしたとっていることがあります。スキー。ガチャが教えてくれたスキー術はひたすらボッカのためで、とにかく転ばずに前に進めばいいというものでした。そこで身につけてしまった悪い癖はどうしても直らず、正しい滑り方を熱心にコーチしてくれた飯田進君も匙を投げ、とうとう私はスキーをやめてしまいました。

あの頃こんな歌が高校山岳部ではやりました。「愛国行進曲」の替え歌。

見よ、ガチャさんの山スキー
荷物を担いで直滑降
それより知らぬ滑り方

進まん道はひとつのみ
あゝ、情けなや、曲がり角
スッテンボーゲン、コケチャニア
顔面制動の姿こそ
これぞ甲南の誇りなれ

のちになってガチャにそのことで愚痴を言った
ら、ガチャは色をなして反論しました。それが面白
くて、山岳会の集会などでガチャと会うたびに、
私はこの話を蒸し返し、そのつどガチャは猛然
と反駁しました。

「ガチャに習ろたせいで、おれはスキーがダメに
なってもた」

「なにをぬかすか。おれはちゃんと教えたぞ。お
まえが下手くそなだけじゃ」

このカケアイが私には実に楽しく、たぶんガチ
ャも楽しんでいたと思います。中学・高校時代には、
ガチャをからかうなんて思いもよらない恐ろ
しいことでしたが、お互いに歳をとって、こんなこ
とを笑って言い合える仲になったんですね。

ドイツ語の翻訳を本業とするようになってから、
私は訳本を上梓するたびにガチャに献上してい
ました。ガチャはそれを克明に読んでくれてい

たようです。まだ家業の社長をやっていた頃の
ガチャから、「貴君の本から名言を拾いだし、社
員への訓示に使っている。貴君のような友人を
持っていることを誇りに思う」という文面の手紙を
もらったことがあります。私は跳び上がるほど嬉
しかったけれど、「センキチ！」と怒鳴りまくって
いた頃のガチャの顔が思い浮かび、「恐れ入
ります」とつぶやくしかありませんでした。

そのガチャがいなくなりました。歳をとると親し
い人の死にも慣れてきて、それほど動揺はしま
せん。山岳会の集会で泊っていた梅池の前田
館でガチャの訃報を聞いたときも、まあまあ平
静に受け止めました。でも、今、この文章を、ガ
チャの思い出を、懐かしみながら書いているうちに、
アルト・ハイデルベルクの話のあたりから鼻がむ
ずむずしてきて、「見よ、ガチャさんの山スキー」
と頭の中で唄ったとたん、涙と鼻水が噴き出しま
した。

ガチャ、もうすぐおれも行くからね。また、山に
連れて行ってくれ。いつもガチャがザイルのトッ
プやったけど、今度はおれが先に登ってジッヘ
ルするからな。

田邊潤(ガチャ)さん(1935～2017)略歴

越田和男 (昭36理)

昭和10年 大阪府生

昭和22年 旧制甲南高校尋常科入学

学制改革を経て甲南中学、高校、大学に進む。その間山岳部所属。

昭和28年 第8回国体(愛媛:瓶ヶ森～石鎚山)に兵庫県代表として選ばれ参加

昭和34年 甲南大学経済学部卒業

新明和興業(株)を経て(株)田邊空気機械製作所に勤務

昭和36年～39年 オーストリア・グラーツ工科大学留学

東アルプスの山々(ダッハシュタイン、グロース・ベネディガー、シェサプラーナーなど)を親しむ。

昭和39年 オーストリアからの帰路、カルカッタで廣瀬健三と合流、甲南山岳会のヒマラヤ遠征の下準備のためのカトマンズ調査行

(株)田邊空気機械製作所社長、会長を歴任

晩年に至るまで、山、スキー、釣り(鮎、鯉、鮎)、辺境の旅(新疆・ウイグル、カラコルム、シベリア、シッキムなど)を楽しむ。

日本山岳会会員(会員番号8932)

平成29年6月 死去 享年83歳

【部・会報等への寄稿歴】

1. ”遠見尾根雪中露営合宿 1952年12月“ 『時報』 第II号 (1953)
2. “春山・遠見尾根合宿 1953年3月” 同上
3. “高校山岳部の現状と今後の方針について” 同上
4. “杓子岳小日向尾根登攀” 『時報』 第III号 (1956)
5. “1957年度部の歩みと方針” 『時報』 第IV号 (1957)
6. “追想” 『追悼・福永隆一君に捧ぐ』 (1958)
7. “小窓谷” 『時報』 第VI号 (1960)
8. ”現役諸兄へ(大学山岳部最近の傾向に想う)“ 『時報』 (1962)
9. “大学山岳部(昭和32年～34年)” 『時報』 山岳部創立40周年記念号 (1964)
10. “カルカッタ・カトマンズ日誌” 『時報』 第X号 (1965)
11. “東アルプス紀行” 同上
12. “ヒマラヤ計画” 『時報』 第XI号 (1969)
13. 翻訳 “フランス・スイス ガネッシュヒマール遠征 1955 by Raymond Lambert” 同上
14. “甲南山岳会運営委員会を組織するに当って” 『甲南山岳会通信』 No.17 (1970)
15. “秋の毛勝山・大明神沢” 『甲南山岳会通信』 No.18 (1970)
16. “運営委員会より” 『甲南山岳会通信』 No.20 (1971)
17. “現代シルクロード雑感” 『山嶽寮』 No.52 (1997)
18. “甲南山岳部の12年” 『山嶽寮』 甲南山岳部創立75周年記念号 (2001)
19. “柏秀樹君の思い出” 『山嶽寮』 No.64 (2009)
20. “高校時代から長い付き合いだった「山本先生の思い出」” 『山嶽寮』 No.66 (2011)

心のこもった追悼文を同期の平井吉夫が書いてくれたので、ガチャさんの略歴をまとめようと、『時報』や『山嶽寮』に遺稿に目を通した。興味深い内容が多かったので、略歴のあとに掲載してもらおう次第です。 2017年8月

田邊潤（ガチャ）さんとの思い出の写真

越田和男（昭36理）



昭和32年夏山 劔岳二股合宿

今はキャンプ禁止になっている二股の岩小屋のそば、三の窓雪溪を見上げるところで、毎年ベースキャンプ生活を楽しんでいました。後列右から二人目がガチャさん（CL 3年生）。何といっても存在感がありました。劔西面での事故の直後だったこともあり、我々新人のために、源次郎尾根や八つ峰の縦走など、ガチャさんには物足りなかっただろうルートを付き合ってくれました。



劔岳早月尾根 1958年12月

昭和33年12月 劔岳早月尾根2600m付近

後列中央にガチャさん（4年生）。2度目の登頂の帰路に写したもの。最初の登頂の時、ガチャがほとんど寝ずにテントキーパーをやってくれ、伊丹さん、藤安と小生の3人を送り出してくれた。この合宿中、二張りのテントの内のひと張りりで火災発生、ナイロンテントが溶けてしまった。大失態のN君がしょげきっているのを、ガチャさんは怒鳴りつけることもなく、仏のようだった。



奥大日岳頂上 1959年3月

昭和34年3月 奥大日岳頂上
ガチャさん（右）と小生

馬場島から西大谷山経由、極地法的にキャンプを二つ設営して、ガチャさんと小生が登頂した。たぶん積雪期初登攀。うんざりするような重たい雪のラッセルのあと、頂上直下の大きな雪庇をガチャさんがよじ登り、未熟な小生をガチャさんが引っ張り上げてくれた。



奥大日尾根
撤収の日
1959.3.17.

奥大日尾根撤収の日 ガチャさん中央

これがガチャさんの現役山岳部員としての最後の山で、未知のルートをたどったこの合宿は充実したものだったとの感想を述べられた。この写真に写っている大関、倉藤、大津の諸兄も今は亡い。



2010年11月 ネパール・インド国境稜線
シンガリラ尾根にて 背景にカンチェンジュンガ



2013年9月 シベリア鉄道ウラン・ウデ駅
左から塩崎、水渡、ガチャさん、小生

ガチャと関学OB南井さんとかかねてからの約束のダーズリン行だった。57年式のおんぼろランド・ローバーで悪路急登の末たどり着いたサンダクプーのゲストハウスに泊った翌朝の写真。寒かったが、朝焼けのカンチェンジュンガを望みガチャさんご満悦。

シベリア鉄道でイルクーツク、バイカル湖と遊んだ甲南山岳会の仲間との旅。ガチャさん既に後期高齢者、「おもしろかった。コッシンまた行こな」とのお声が気になってましたが、これが最後になってしまいました。

ホームページに寄せられたメッセージの一部をご紹介します

ガチャさんの訃報に触れて 南井英弘 (関西学院大学山岳会)

雪見会に10余年毎年ご一緒させていただき、ガチャさんの高遠別荘でのパーティにも度々招いていただいた。何時の間にか厚かましく甲南山岳会の仲間に入れて頂いていた。その上、ガチャさんと2003年夏に、ひと月弱のカラコルム・バルトロ氷河トレッキング、2010年11月ダーズリン・タイガーヒルとシンガリラ尾根からのカンチェンジュンガ展望、古き良き時代のヒマラヤ遠征隊がしばしば通過した旧英国インド政府の避暑地・シムラそしてシッキムも訪ねた。2012年3月ドロマテ・スキーもご一緒した。実力を存分に発揮し超スピードで大滑降している姿が羨ましかった。昨年の雪見会で温泉に出掛けた帰路、猛吹雪の中で愛車ランドローバーを運転するガチャさんの運転が気になった。案の定、今年の雪見会に参加されておらず心配していた。同じ年生まれながら少し先輩のガチャさんにはよく面倒を見てもらった。有難う！
訃報に接しガチャさんのご冥福をお祈り申し上げます。5月末から都内某所のガレージで部品の追加をしてもらって帰宅したところです。そんなことで訃報を知るのが遅くなり失礼しました。ガチャさん、許されたし！

ご冥福をお祈り致します 小西啓右 (関西学院大学山岳会)

田邊さんのご逝去驚きました。甲南山岳会の柱のような方で、部外者の私にも親しく接して頂き感謝しておりました。ご冥福をお祈り致します。 合掌

ガチャさんとのお別れ kannroku

ガチャさんとの最後のお別れをしてきました。ご家族の方達とお話しさせていただきましたが、悪性リンパ腫が原因とのことでした。奥さんとドイツ・オーストリアへの旅を約束しておられた由。沢山の思い出をいただいたのにお別れで寂しい限りです。

ガチャさん 有難うございました

柏 敏明（昭41経）

この度は、田邊先輩のご逝去の知らせをお聞きし、誠に残念な限りです。田邊先輩と本来なら書くべきところですが、日頃から呼ばしていただいていたガチャさんと敢えて書かして頂きます。思えば、大学に入る前から、兄貴との関係で親しくしていただいていた。大学山岳部入部後も、現役の剣岳合宿に参加して頂いてご指導を受けました。例の涸沢で石を担がされた時には、オーストリアに留学されていたガチャさんに手紙を出して現状を訴えた事も、今は懐かしく思い出します。卒業後も厳冬期の穂高ジャンダルム飛騨尾根を、ガチャさん達と数年掛けて目指しました。入山の途中で前を走るスキーバスが河原に転落し、ガチャさんが先頭に立たれて救助に当たり、地元の新聞に載った事もありました。横倒しになったバスのディーゼルエンジンの止め方がわからず、オロオロしていると、車に詳しいガチャさんが「燃料パイプを止めろ！」と大声で指示され、やっとエンジンが止まった次第です。エンジンが止まらず、加熱、出火していたら、車内に多くの人を取り残されていたので、大惨事になっていた所でした。甲南がガネッシュヒマールを目指した時も、留学先から帰国される時にネパールに立ち寄って、偵察をされ、遠征の牽引をして頂きました。その結果、1年留年する事に小生もなりましたが、青春の大切な思

い出です。ガチャさんのスキーはテクニックもさることながら、スタイルがダンディで、恰好良く、我々は憧れたものでした。ガチャさんのお酒は親しまれず、一見、堅物に見えましたが、山の話を始め、最後にはY談、Y歌迄付き合っていました。高遠の素晴らしいガチャさんの別荘での合宿も忘れ得ぬ思い出です。シェーンの冒頭の背景にバイクが写っていると論議になった時、その場でシェーンのDVDを持ち出され検証されたこともありました。傘寿になられても、負けん気は衰えず、若手を相手に梅池の馬の背コースの滑降回数やスピードを競われていました。登山の先鋭的な考え、慎重な方針、運営について色んな考えが出されていた時期にも、甲南山岳部、山岳会の中心的な役割を果たしていただき、ご指導をして頂きました。ガチャさんという良き先輩に恵まれ、幸せだったと思います。元気な時は、何時でも会えるという気があるのか、会いたいというよりも、自然に会えると思って意識していませんでした。幽明を異にすることになった今、無性にガチャさんにお会いしたいという気持ちが抑えられません。もっと、お会いしてお話をしたかったというのが、今の気持ちです。改めて、田邊先輩を偲び、お礼を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。 合掌

会員短信

秋の集会 (平成28年秋)

名誉会員

平井一正 (名誉会員)

6月終わりに脊柱管狭窄症の手術をしました。
現在 (8月)は大分よくなりました。皆様にご報告
よろしく。

旧制高校

赤松二郎 (旧14理)

高齢で歩行困難となり、行かれません。何年か
前に夫婦で参加させて頂いた時のことを、懐か
しく思い出しております。 恵美子

伊藤五介 (旧25文修)

なんとか生きています。

新制高校

北方龍一 (新高30)

私は元気です。県の方針もあり、補助金を得て
六甲ケーブル下の水車新田に、小規模水力発
電を設置すべく関係各所を走り回っています。
神戸市で唯一の水力発電となるべく連日苦勞し
ています。皆様にご報告お伝えください。

竹原佑爾 (新高33)

元気です。皆様にご報告お伝え下さい。

山城國暉 (新高36)

集会欠席します。皆様にご報告お伝えくださ
い。

白川浩平 (新高H2)

相変わらず、高知で波乗りをしています。最近
は持病の腰痛がひどく、真剣に運動と減量に、
取り組まなければと思っています。

大 学

砂川彰雄 (大32経)

乗鞍集会は皆勤でしたが、今回は地区の体育
祭と重なり、しかも自治会の丁目副会長をさせら
れている関係上、残念ながら欠席させていただきます。
盛会をお祈り致します。

宮本 侑 (大32経)

ほとんど外出は出来ないので欠席させていただきます。

鈴木頼正 (大33経)

4月から体調を崩し、膵臓炎を患い、結局、膵臓
を摘出して7月21日無事退院致しました。4月の
総会は欠席しましたので是非秋の集会に頑張って
出席しようと思っています。お世話頂いている
皆様に厚く御礼申し上げます。

伊丹弘忠 (大35経)

元気しております。高齢になり、今回も欠席し
ます。皆様にご報告よろしく。

鳥居威男 (大35経)

80歳を迎え、平地を散歩するのみです。左ヒザ
を痛めなんとか…。駒王には出席無理と思いま
すので、ご連絡は無用と存じます。

牧野 宏 (大36経)

旨いビールを飲み、神戸駅南のハーバーラ
ンドと潜水艦を目にする。葉巻型の黒い船体。
被探知防止として、無反響タイルを船体及びセ
イルに装着していると云う。艦の保守点検と乗員
の休養を兼ねての入港だろうか。乳母車を押す
若い母親も、犬の散歩の人達も、立ち止まらな
い。地元では日常の光景らしい。近海のパト
ロールの必要性は理解しているが、潜水艦が活
躍する時機の無いことを願っている。いつまでも
旨いビールを飲みたいものだ。

田中 孜 (大36経)

他の行事と重なりましたので残念ですが、欠席いたします。

越田和男 (大36理)

他と予定が重なり、出席できません。悪しからず。登山をあきらめ、山歩きとなり、さらに里歩き、山見遊山へとレベルを下げますが、山と接する頻度は結構多いです

伊藤久三郎 (大36経)

失調症で毎日病院通いをしておりますので、欠席させていただきます。皆様に宜しくお伝えください。

藤安賢一 (大36経)

去る8月5日 (金) 自宅2階階段を踏み外し、転倒落下、左側各所を打撲スリむき、大したことは無かったので、外科で処置してもらい事無きを得た。ドジな事である。あちこちが痛くてしょうがない。来年の保久良梅見会は行くつもりである。庭の梅、紅白も立派に咲くであろう。

二谷和成 (大38経)

元気にしていますが、年々、体力・気力ともに低下しました。月1~2回のハイキングも3~4時間のコースが精一杯です。今年の暑さには参りました。

森本全彦 (大39法)

元気にやっております。滋賀の山には行っております。湖北の方に行きたいのですが熊との出会いを恐れていけずじまい。ご盛況をお祈りします。

村上与利一 (大39営)

木曾駒高原は思い出の地、親父のレリーフの有る所なので出席したいのですが、リストラで人手不足、御自から働いており、残念ながら欠席です。体は元気、血液検査ではγGTPが少し高め、酒が飲めるようになれば会合に出たい。

福田信三 (大39理)

身の回りを全て整理。家も売却。小さなマンション

ンに越しました。引越しの大変さには驚きました。元気なうちでないと出来ませんね。教会のお墓(400基)のお世話を10年になりますが、目標の美化、お墓でピクニックも真近になって来ました。墓参者の方も大変増えました。

(住所変更)

鶴木 洋 (大40文)

70歳を過ぎても元気に登山されている皆さん、素晴らしいです。父も病院で頑張っています。(娘より)

井本 洋 (大40理)

市民農園で野菜を栽培するのが唯一の楽しみにしていましたが、7月末で閉園になり、さて何を？「小人閑居して不善をなす」事のないよう努めて歩くことを、心掛けています。早朝と夕方に歩け歩け。ボケないうちに皆さんの顔を拝見しておきたいと考えています。いろいろお世話になりました。感謝・感謝。

奥山正紀 (大40法)

元気にしております。

柏 敏明 (大41経)

1月シンガポール、2月志賀高原、4月藤沢、5月西宮~沖縄クルージングと慌ただしい毎日をごしました。10月立山、藤沢、12月シンガポールを予定しています。動けることに感謝の毎日ですが、果たして何時まで？皆様に会えるのを楽しみにしております。

塩崎将美 (大41経)

南米旅行を計画している為、残念ながら出席できません。盛会をお祈りいたします。

井上 徹 (大41営)

いつもお世話さまです。山登とはスッカリ疎遠となり、足腰の衰えを痛感する、今日この頃です。唯一の楽しみであるゴルフも終盤になると、決まって大叩きし、苦い思いをするラウンドが続いております。90歳までにエイジシュートを達成したいと思っています。(FBでも活動概要を紹介

してください！)

國分廣昭 (大43経)

元気にやっとなります。

森岡宏光 (大43理)

先日、S43卒 國分、頼富、佐崎、森岡4名で6/6(月)ー6/7(火)一泊二日で高山集合、新穂高ロープウェイ終点2,156mまで行ってきました。目の前の笠ヶ岳や西穂高がよく見えて感動しました。甲南がよく利用する民宿「森井」で一泊、山の幸、露天風呂で楽しい旅行でした。

赤田正和 (大44理)

当日、会社会長の一周忌があり、欠席です。社有林の管理も多忙です。3月には400haの山林(三重県海山)を購入しました。山林買いますのでいい物件があればご連絡を(笑)。オリンピック(東京)も近づき国産林の需要も増えています。日本の森林を元気にしたいと考えています。皆様によろしく。

南里章二 (大45理)

当日は講座の予定があり、残念ながら参加できません。明日(8/3)より2週間中国へ出かけます。13年ぶり、8回目の中国です。担当する講座で中国について語る機会も多く、情勢の変化に伴って、中国を見る目も変わり、私自身のスタンスも見つめ直さねばと思ったからです。

矢吹 操 (大45理)

元気です。いつも連絡いただき、ありがとうございます。参加できませんが、今後ともよろしくお願いたします。

井上知三 (大48文)

敬老の日を前に市から「敬老の集い」の案内が来ました。「65歳おめでとございます」何とか高齢者の案内が来る今日この頃です。2年ぶりの秋の集会、皆様にご一緒して美酒を楽しみたいと思っております。皆様にお会い出来る事が楽しみです。

平井幹男 (大50文)

そろそろ仕事を辞めて悠々 自適に生きていこう

と考えていましたが、そうもいかず、当分は仕事を続けていく事となりました。暇を見つけて山に行きたいものです。

中澤章治 (大50文)

体調を崩し、朝、日課にしていた散歩を二年程欠き、悪い循環が来ていましたが漸く脱出。先の調子が戻ってきました。例年のことながら、秋の集会には出席できませんが、春のほうは極力出席するように致します。

高橋けい子 (大50文)

私事ながら、この夏、我がボロ会社に赤ちゃん猫が迷い込み、レスキュー隊のお世話で無事救出！レスキュー隊へのお礼、どうしたらよいか、谷君に聞いたり、子猫になるまで大柳さん(ポチ)に預かってもらったり・・・、素晴らしい友達をもって幸せです。

村田信一 (大50法)

険しい山に登らなくなり、代わりに夫婦で教会巡りをしています。5月スペイン旅行して世界遺産を見てきました。スイスの山と教会を訪ねてみたいと考えています。甲南山岳会の皆様に恵みと平安がありますように✦

松本好博 (大52法)

マイペースで元気にやっています。11月初旬に久しぶりにカトマンズに旅行します。楽しみです。

松下哲夫 (大52理)

元気で働き、少し山歩きを楽しんでいます。

大森雅宏 (大53文)

相変わらず、相変わらず、薬関係の団体で事務仕事をしております。下り坂ですが健診に引っかけられない程度に健康です。

住友健時 (大55法)

何時もお世話になります。今年も帰国の予定がありませんので、欠席させていただきます。皆様によりよくお伝えください。 住友和子

川野幸彦（大56理）

元気です。今年は9月に西穂から奥穂に行く予定です。気持ちは、まだまだ現役ですが体力は確実に落ちています。登山中も若い人に簡単に抜かれます。今のうちに行きたい山に登ろうと思っています。まずは知床半島と利尻岳です。近いうちに訪れたいと考えています。秋の集会の盛会をお祈りしております。

山本恵昭（大56理）

夏にタンザニアに行って、キリマンジャロに登ってきました。意外と立派な氷塊が山頂部にあって、驚きました。その後、サファリで野生動物見学。ゾウが2mまで近づいて来て睨んでいったので、とても迫力がありました。

八木 健（大58経）

毎回、ご案内ありがとうございます。大学から送られてくる「甲窓」を読んでいて、現役が居ないということに、淋しさを感じるとともに責任を感じるこの頃です。皆様のご活躍を祈念いたします。

西名俊英（大61理）

いつも案内ありがとうございます。
今年も取込みが重なり、落ちつく暇が在りませんが、家族4人で、いつもの丹沢へキャンプに出かけようと思っています。盛会をお祈りします。

橋田豊彦（大H12経）

失礼しております。宜しく願い致します。

池内友宏（大H）

もうすぐ自由に動ける様になります。
（仕事を辞め、独立するため）

森本寛之（大H19理工）

今年4月よりバンコクでの5年の駐在を終え、生まれ育った神戸に戻りました。今は娘（3歳）との六甲ハイキングなどを楽しんでおります。

総会・慰霊祭（平成29年春）

名誉会員

平井一正（名誉会員）

85才をすぎるといろいろ故障が出てきました。

特別会員

鈴木敬吾（特別会員）

当日所用があり欠席します。月に一回の山を楽しんでいます。

旧制高校

赤松二郎（旧14理）

老齢のため出席させて頂くことは出来ませんが山嶽寮は何時も拝見しております。ご盛会を祈ります。 妻

福井 實（旧17理）

総会には出たく思います。天気具合によりますが、散歩に出かけ【ゆっくり近所を】体調を何とか調整しております。すっかり「ボケてしまいましたが!!

新制高校

中井久夫（新高27）

お世話になります。いつもご案内ありがとうございます。中井は現在要介護度5の状態にて外出はほぼ不可能な状態です。つきましては以後のご案内は不要にて何卒ご理解の程お願い申し上げます。 【代秘書】

北方龍一（新高30）

山とはすっかり縁が切れていますが、相変わらず県の嘱託で兵庫県の自然エネルギー相談指導員として県下一円に出張しています。このたび私の主催するNPO法人で六甲ケーブル下の灘区水車新田に神戸市内初の小規模水力発電設置に関して環境省より国立公園内に於ける発電用水の取水許可を取得しました。4月20日より井戸知事とオーストラリア、パースに於けるイベントに出席します。

竹原佑爾（新高33）

元気にしています。

永島孝男（新高37）

総会、並びに慰霊祭の盛会をお祈り申し上げます。

福田裕久（新高45）

本年3月30日に3人目の孫が生まれまして、ますます寄る年なみを考えるようになりました。

前田和也（新高53）

遠方でなかなか出席できません。帰省等でタイミングが合えば是非参加したいですが、引越しました。仙台在住の山岳部の方おられましたら
下さい。

松下弘幸（新高54）

残念ながら海外在住の為出席できません。皆様によろしくお伝え下さい。

白川浩平（新高H2）

今年の春に高知県内の山あいの本山町という村にモンベルの大規模な施設が出来、クライミング施設が作られるそうです。そこでのインストラクターとして、あの伝説のクライマー鈴木秀貴氏が来られるそうです。しばらく高知に滞在されるそうで、今から楽しみにしています。

北川裕也（新高H17）

高等学校の時山岳部でした。宝塚から西宮に変わりました。

大 学

砂川彰雄（大32経）

昨年度は団地の自治会の役員をやらされて忙しく、今年は防犯会だそうで82才になって人のことまで面倒みれんと言っています。大学山岳部初期の人たちのことを書くと言いながらまだ筆をとっていません。

雨宮宏光（大33経）

総会出席と思っておりますが当日事情により欠席となるかもしれません。状況がよければ出席します。

鈴木頼正（大33経）

会長平井さん、塩崎さん、井上さん等みな様のおかげで甲南山岳会が存続しています、感謝しています。昨年の病からすっかり回復し、体重も

元に戻り、フィットネスに行ったり、万博公園をノルディックウォークしたり、また3月からゴルフを始めました、やはり筋肉の衰えは痛切に感じています。今回も慰霊祭には出席できませんが総会に出席して皆さんに会える事を楽しみにしています。

田辺 潤 (大34経)

元気で居ます。久しぶりに皆様にお会いできるチャンスですが一寸面倒なのも事実です。年をとったのでしょう。お集まりの諸兄によろしく。

(平成29年6月に逝去されました 編集)

鳥居威男 (大35経)

元気にしていますが年が経つ毎に足腰が思うように動かなくなってきました。80才になるとしようがないですね。

越田和男 (大36理)

旅行に日程と重なり残念ながら欠席となります。悪しからず。創部100周年までに山岳部を復活させることに知恵を出し合ってください。

伊藤久三郎 (大36経)

毎日病院通いを続けております。皆様によろしくお伝えください。

田中 孜 (大36経)

現在病気で治療中のため欠席します。皆様によろしく。

廣瀬健三 (大36経)

世話役の方々お役目ありがとうございます。

藤安賢一 (大36経)

いつもご連絡ありがとうございます。残念ながら身体不自由の為、出席できませんが体調が良

ければ総会に出席できるかもしれません。変な返信で申し訳ありません。

牧野 宏 (大36経)

ふとした出来心から鰯の一夜干しに凝っています。薄い塩加減と少し乾いたプリプリの魚体が酒の旨さを引き立てます。自分で釣った鰯なら更に美味しかろうと思いましたが残念ながらスーパーのものです。釣果を気にせず何時でも魚売り場で手に入るのが嬉しいし楽な方が良いのです。家人に好評かどうか怖いもの見たさもあり乍ら確認はできません。すみません今回も山の話でなくて。

二谷和成 (大38経)

年々体力の低下を実感しています。出来るだけ毎日歩くようにして体力を維持しようと思っています。

飯田 進 (大38経)

返事遅くなって申し訳ありません。最近物忘れがひどくなって先日でもマーロンブランドを思い出すのに二日かかりました。皆様によろしく。

福田信三 (大39理)

山からは長い間離れています。人生のフィナルを楽しんでいます。転居しました。JR六甲道より傘なしで南へ3分年寄りには超便利な場所です。生活に必要な場所へ全て5分以内です。賃借なので毎月の家賃。家等は全て売り払い超身軽になりました。すいません中高の同窓会【幹事】のために欠席です。皆様によろしくお伝え下さい。

武田雄三 (大39経)

元気に過ごしております。スキーは怖くなってぎ

ブアップ。溪流釣り三昧、関東まで行って飯田さん水渡さんに遊んで貰っています。

村上与利一 (大39経)

当日コンサート会場での仕事があり残念ながら欠席します。

森本全彦 (大39法)

元気にやっています。

鵜木 洋 (大40文)

病院生活も長くなりましたが、のんびり頑張っています。【娘より】

井本 洋 (大40理)

皆様によろしくお伝えください。

安井 正 (大40経)

いつも有難うございます。

伊丹徳行 (大40法)

幹事さんご苦労様です。今年は兵庫県下の国宝・有形文化財・無形文化財を見て廻りたいと思っています。

柏 敏明 (大41経)

幹事様いつもお世話頂きありがとうございます。1月は柵池・志賀高原でスキーを楽しみ、2月はスペインのゲルニカとサクラダ・ファミリアを見た後ヘレスでのフラメンコフェスティバルを娘や孫と見てきました。3月は長女の藤沢で過ごし4月26日からは又、一か月ほどシंगाポールの次女の所へ行って来ます。お陰様で今のところ元気にやっています。

井上 徹 (大41営)

年々足腰の衰えを痛感させられ寂しく思ってい

ます。先日もイタリア・スペイン・フランスを旅してきましたが、本当にくたびれました。すぐ近所にある伊豆半島で一番高い万三郎岳にもすっかりご無沙汰しています。来年の総会には是非参加したいものと思っております。同期の鈴木君や八島君はどうされていますか。

浪川純吉 (大42営)

予定が入っており参加できません。

森岡宏光 (大43理)

幹事さんいつもありがとうございます。小生も72才定年の年です。さいわい一年延長となりよろこんでいます。健康で仕事に問題がなければ75才まで更新できる今のマンション管理会社にいつも感謝しながら仕事に頑張っています。

國分廣昭 (大44経)

最近、早朝30～60分散歩してラジオ体操して体を鍛えています。サバイバルの為です。

南里章二 (大45理)

お役目ご苦労様です。相変わらずカルチャー・講演・旅行などに走り回っています。毎年4月の山岳会の集まりには参加できるよう前もって予定を空けるよう心がけています。

石原浩二 (大45理)

少しでも山に行きたいと思っています。

矢吹 操 (大45理)

相変わらず宮仕えの会社員。ちょっとしんどくなりました。義母の介護の手伝いや高校時代の同窓会のお世話などで自分に時間が持てません。ジョギングが出来なくなっています。

赤田正和 (大46理)

当日鹿児島出張です。残念です。仕事はリクルートに社有林管理と多忙。森林が見直されてきていますがまだまだ問題は多いです。右まき?の関係は森友学園もあやうく巻き込まれるところでした。宮城遥拝の会・不二歌道会等々休みはありません。皆様によろしく。

杉原久夫 (大47理)

いつもお世話様です。現在、私は旧街道を歩いています。日本中を歩いて旅をしたく思っています。

井上知三 (大48文)

4月に体調を壊しアレルギー検査を含む血液検査をしたところアレルギーには問題なしでしたが肝機能の数値が悪く医師から飲酒の制限を求められ3週間後に再検査をしました。結果は良好で問題なしでしたが飲酒はほとんどこと診断されました。また、今年は集合住宅の理事にあたり週末の時間が理事会に費やされ少し欲求不満気味です。

平井幹男 (大50文)

早々に退職してのんびりと山に行きたいと思っていますが、なかなかそうもいきません。毎日あくせく働いています。総会・慰霊祭楽しみにしています。

高橋けいこ (大50文)

いつもお世話になっております。昨秋、ヒナコ【平井氏前夫人】の墓参りに横浜のQ以外、皆が集まりました。例年墓前でお茶会をするのですが、今年は新築されたゲテ夫妻の招待をうけ、とても盛り上がった女子会(?)でした!!お

りしも諸兄の秋の集会と日が重なり、盛会を皆でお祈りした次第です。

中澤章浩 (大50文)

ながらく勝手をしております。所要のため慰霊祭は欠席いたしますが総会は出席の予定です。

村田信一 (大50経)

ご案内いつも有難うございます。毎週末を所属のカトリック教会で過ごしています。主に聖歌隊で歌うことが多く2月には大阪城ホールでユスト高山右近の列福式に参加して歌う機会に恵まれました。ご盛況をお祈りしています。

渋谷一正 (大51営)

退職後は山岳会にすべてを尽くします。もう少し待って下さい。

大柳香代子 (大51法)

だんだん目で登る山ばかりになりつつあります。好奇心はある方ですので、まだまだ山遊びに興じたいです。

松本好博 (大52法)

いつもご案内ありがとうございます。元気で頑張っています。昨年秋、久しぶりにカトマンズに行ってきました。地震の復興もビスタリ・ビスタリでした。

松下哲夫 (大52理)

近郊の山歩きを楽しむことが今年も出来るように努力しています。

大森雅宏 (大53文)

いつも案内をいただいて有難うございます。60を過ぎてだいぶ草臥れましたが、相変わらず大

阪の薬品関係の団体に仕事をしています。今まで社会貢献が足りなかった分を時間でカバーすべく、あと何年か勤労の汗を流します。

鳥井陽子 (大54文)

お世話になっております。昨年、大学を卒業して以来、初めて慰霊祭に参加しましたが、久しぶりのロックガーデンで楽しいひと時を過ごしました。今年もよろしくお願ひ致します。

住友健時 (大56法)

帰国の予定がありませんので欠席します。元気に暮らしています。

山本恵昭 (大56理)

人なみに腰痛・腱鞘炎と体にガタがきていますが、だましまし山に行っています。

川野幸彦 (大56理)

ご無沙汰しております。なんとか元気でやっております。東京での単身生活も5年です。東京の人の多さに参っています。山登りは低山を中心に歩いています。また先日は東京の山手線一周を試みましたが、四分の三で止めました。再度、秋に歩く予定です。この5月には独りで剣か立山三山に登る予定です。まだまだ元気一杯です。還暦まで、あと一年です。総会には出席いたします。

八木 健 (大58経)

毎回ご案内ありがとうございます。先日、足慣らしに荒地山迄行こうと思いましたが、膝の状態が悪く城山で引き返してきました。当日、行けても別行動になると思いますが楽しみにしています。併せて総会が盛会に終わりますよう祈念申し上げます。

西名俊英 (大61理)

いつも案内をいただきありがとうございます。網膜剥離やら胸椎症やらで、あちこちガタがきています。次女の中学受験が終わったら山に行ってみたくと思っています。ご盛会をお祈りします。

松山弘和 (大61理)

2年前に白馬～唐松を縦走しました。今年こそはと思っていますが、体が出来ていないのでしょうか？まだ時間があるので頑張ります。

松成 健 (大H8文)

すっかりご無沙汰しております。仙台に住んで5年目になります。関西からはなかなか行けない安比でスキーを楽しみました。雪がなくなつてから東北の山を楽しみたいと思います。職場は相変わらず福島県で月～金まで出張の毎日です。毎日、運転と文献の読み込みに明け暮れています。

谷 勇輝 (大H20理工)

いつもお世話になっております。昨年からはホームページ担当をさせて頂いております。なにぶん不慣れな点もあり、ご迷惑をおかけしております。慣れ親しんだホームページ並びに掲示板を今後とも活用していただき交流の場として頂きたく。また皆様の自由闊達なご活躍を掲示板へ投稿、または紀行文としてお寄せ頂き活気溢れるHP運営を目指してまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。

ご遺族

本田依子 様

ご案内ありがとうございます。足に自信がないので残念ながら欠席させていただきます。ご冥福と皆様のご健康をお祈り致します。

乾恵美子 様

いつもお世話になりありがとうございます。今年は丁度その頃にアメリカ在住の友人と東海岸を旅行中で残念ながら欠席させていただきます。元気にはしておりますが年々山歩きに自信がなくなってきております。この近辺の山々春にはコバノミツバツツジが美しく私の原風景となっております。来年はぜひ参加することができるよう願っております。

横山嘉壽子 様

ご案内ありがとうございました。娘（砂川）一家3人が「高座の滝まででも行きます」とっております。よろしくお願い致します。

樋口雅子 様

湧太は高校3年生、達也は中学3年生となりました。今年は町内会の会合にどうしても出席しないといけないため申し訳ありませんが欠席させていただきます。達也もサッカー部の試合の為出席できませんが、湧太が出席させていただきますのでどうかよろしくお願い申し上げます。



平成29年 慰霊祭にご参加のみなさん

報 告

秋 の 集 会

担当 渋谷一正

日 時 平成28年10月8日(土)～9日(日)

場 所 木曾駒文化公園内宿泊施設「駒王」(長野県木曾郡日義村)

次 第 10月8日 受付 夕食・懇親会

10月9日 朝食 記念撮影 部歌斉唱【山の歌】

出 席 鈴木敬吾 特別会員 雨宮宏光 大33経 鈴木頼正 大33経 武田雄三 大39経
安井 正 大40経 井本 洋 大40理 柏 敏明 大41経 浪川純吉 大42嘗
國分廣昭 大43経 石原浩二 大44理 岸田昌雄 大44文 山本眞博 大48理
井上知三 大48文 平井幹男 大50文 渋谷一正 大51嘗 松下哲夫 大52理
平井吉夫 新高32 川村静冶 新高40



8日(土)は18時より平井会長の挨拶、鈴木頼正長老の乾杯で始まり、にぎやかな一夜を過ごしました。

9日(日)は7時より朝食、その後、記念写真を撮影、部歌を高らかに歌い、解散しました。

平成29年度山岳会総会

担当 井上知三

日 時 平成29年4月22日(土)

場 所 平生記念館

参 加 福井 實 旧17理 雨宮宏光 大33経 鈴木頼正 大33経 二谷和成 大38経
武田雄三 大39経 安井 正 大40経 柏 敏明 大41経 塩崎将美 大41経
國分廣昭 大43経 石原浩二 大44理 南里章二 大45理 平井幹男 大50文
高橋けい子大50文 中澤章浩 大50文 松下哲夫 大52理 大森雅宏 大53文
山本恵昭 大56理 川野幸彦 大56理 松山弘和 大61理 谷 勇輝 大H20理工
川村静治 新高S40

次第・報告

1. 会長挨拶

平井幹男

2. 平成28年度 事業報告

1) 慰霊祭

松下哲夫

天候に恵まれ16名の参加

2) 木曽福島 集会

渋谷一正

例年通り駒王で開催18名の参加

3) 山嶽寮

塩崎将美

71号よりカラーページを多用した

4) 大学山岳部の現状

平井幹男

5) 中高山岳部の現状

平井幹男

大学は現在も休部状態、他大学でも部員不足は深刻な問題 / 中高も部員数0

6) 会計報告

山本恵昭

報告の通り承認(明細は別掲)
10年会費を検討してはどうか

3. 平成29年度 事業予定

1) 慰霊祭

松下哲夫

2) 秋の集会

渋谷一正

3) 山嶽寮発行

塩崎将美

4. 議事並びに報告事項

1) ホームページについて 谷 勇輝

新しいレンタルサーバに変更

2) 山嶽寮発行及び今後について

塩崎将美

寄稿に協力を願いたい

集まらない場合はページ減・隔年発行も検討
発送時に原稿用紙を同封の意見

3) 甲南100周年に関する寄付等について

ボード作成の条件で寄付に協賛しては

4) 部員獲得プロジェクトについて

学生からみれば40歳はおじさん

獲得への援助は難しいです

若い人は山岳部に入らない【学生事情/授業・アルバイト等】

スポーツライミングを

「山登り」昔のことは忘れよう

現在のサークルのレベルは非常に高い

などの意見

上記のとおり報告します。

会計担当 山本恵昭

監査の結果、適正に処理されたと認めます。

会計監査 平井幹男

慰 霊 祭

担当 松下哲夫

平成29年4月23日、快晴の天気です慰霊祭を実施できました。

芦屋川駅集合で、國分さん(大43卒)、石原さん(大44卒)、南里さん(大45卒)、井上さん(大48卒)、平井さん(大50卒)、大森さん(大53卒)、鳥井さん(大54卒)、山本さん(大56卒)、八木さん(大58卒)、谷さん(大H20卒)、川村さん(高40卒)、樋口湧太さん(香月初代会長の曾孫さん)の13名参加予定でしたが、八木さんが急な要件発生で完全の別行動となって、高座の滝の上の堰堤ですれ違となりました。

今回、従来昼食場所が斜面で不安定でしたので、レリーフから見える少し戻った場所に変更しました。少し岩がごろごろしていましたが、斜面でなく景色も正面にブラックとレリーフ(双眼鏡で)が見える場所で皆さんには好評で、平井会長が「甲南テラス」と命名されました。

11時20分レリーフで黙祷、写真撮影し「甲南テラス」へ移動し昼食。食後、部歌斉唱し、12時30分現地解散。

(写真は36ページに)

山行と集い

湘南アルプスに行って来ました。

柏 敏明 平成28年4月 7日

越田さんのお声掛かりで、5日に湘南アルプスへハイキングに行って来ました。参加者は米山さん、越田さん、飯田さん、井本さん、水渡さんと小生の6名。10時に平塚駅に集合。タクシーで桜満開の来神社へ。雨上がりの山道を歳に応じたピッチで約30分。168mの高麗山頂上着。小休止の後、山吹や大根草、カタクリ、その他名も知らぬ花の群生を楽しみながら八俣山を経て、30分で浅間山181m山頂。残念ながら富士山や丹沢山塊は望めず。ベンチで昼食。春風に吹かれながらの旨い酒。

皆さん、本当にお酒がお好きでお強いです。赤ワイン2本、白ワイン1本、日本酒4合を楽しんで出発。湘南平で記念撮影をして大磯駅へ。駅周辺には飲み屋がなく、藤沢駅へ。「一軒目」と言う飲み屋で仕上げをして解散となりました。皆さん、楽しい一日を有難うございました。

写真は越田さんから拝借しました。



大文字山

山本恵昭 4月18日

以前、皆さまに沢登りや雪見会でお世話になった末娘が、就職で神奈川へ引っ越しました。この土曜日、娘と妻が下宿の最終片付けをしている間に、大文字山に登ってきました。腰痛い、体が重い、息切れる。この半年で急激に体にガタが来ています。

大の字の横棒右端の木陰で、思わず昼寝。目が覚めて気が付きました。大文字山の大的字周辺は、ワラビだらけのワラビ山でした。ハイカーもいっぱいでしたが、好奇心に耐えながら、一杯採取。翌日の日曜日は、雨の吉田山へ。山頂のおしゃれなカフェ「茂庵」モアんで、雨宿り兼ランチ。よれよれTシャツに首からタオルでちょっと場違いでしたが、優雅な京を楽しみました。

これからは、時々金沢文庫周辺に出没するかもしれません。関東在住の諸先輩方、周辺の面白いところがあれば教えてください。

慰霊祭(ロックガーデン)

松下哲夫 4月27日

天気予報より良い天気恵まれ慰霊祭慰を実施できました。昨年はルートを変更し城山から登りましたが少し距離が長く時間が掛かり不評でした。今回は、従来のルート(高座の滝～高座谷)に戻し1時間30分程でレリーフに到着しました。昼食後、黙祷、部歌合唱し現地にて解散しました。

ご参加者(敬称略);越田、二谷、村上、浪川、國分、石原、南里、井上、平井(会長)、松下、大森、鳥井、山本、川村、樋口(2名) 16名



遠見尾根から五竜岳

大森雅宏 5月1日

連休の前半、リーダー山本と五竜に行ってきました。五月やデ、後立やデ、地図に実線を出てるコースやデ、と少々お気楽に出かけましたが。ワタクシ敗退、山本辛勝。お気楽・楽勝のはずが、敗退・辛勝となったのは、ひとえに風のせいです。五月の後立で「耐風姿勢」を取るなんて思いもしませんでした。

西遠見付近のテントを出て強風快晴のなか、概ね広い雪稜を白岳へ。五竜小屋から夏道通し、ところどころ氷化した斜面でエビのシッポが一面ついたのでを過ぎ、岩場のとっかかりまでは二人で動きましたが、その辺は「強風」ではなく「烈風」。

ヤ「オーモリさん大丈夫？」

オ「うーん、風に負けた。下りるワ」

いつもは「もうちょっと頑張りましょうヨ」などと言うリーダーも、面倒が起きたら困ると思ったか「では小屋で待っててね」。ということで、リーダー山本は烈風をおして頂上へ。大森は小屋方面に。リーダー山本の辛勝レポートと行動記録は彼のカキコミをご覧ください。



五竜岳 冬の装い

山本恵昭 5月2日

5月29日(金)早朝、五竜スキー場の Gondola 駐車場に到着。仮眠から目覚めると、タイヤのパンクに気が

付く。Gondola 始発待ちの間にスペアタイヤと交換するが、出発前から幸先悪し。

8:40雪の降る Gondola 山上駅を出発。小遠見、中遠見を経て、テント設営予定地の大遠見に11:30着。吹雪ではあるが、時刻も早いので西遠見まで進む13:00。スペース的にはテント設営に十分であるが、猛烈な吹き曝しの風にここでの設営を諦める。大遠見との中間地点付近まで戻り、2172mピーク近くの木の影を整地してテント設営14:30。雪のブロックで取り囲んでも、テントは風に翻弄されている。

30日(土)風は強いものの、快晴。冬のような装いの鹿島槍ヶ岳、五竜岳が美しい。5:40出発し、主稜線の白岳まで登るとさらに風が強くなる。五竜山荘の前で一休み7:30。雪煙舞い上がる五竜岳を目指す。あまりの寒さと風の強さに大森さんは途中断念し小屋へ。一緒に戻ろうか迷ったけれど、折角なので行ける所までと独りでさらに進む。所々、テラテラの氷壁となり慎重にアイゼンを蹴り込む。ピッケルを持つ左手の薬指と小指の感覚がなくなり、安定した場所に来ると指を首に突っ込んで温める。最後の雪壁を登り切り、8:30山頂に辿り着いた。黒部側に突き出したその山頂は、激流の中の飛び石のごとく風がない。シャーベット状に凍りかけた水を飲み、行動食を頬張る。指を温め直して、やっとひと心地。剣岳が堂々と聳えている。藪内さんが遭難された鹿島槍東谷が白く寒々しい。9:00ダッシュで下山し、五竜山荘で大森さんと合流9:50。白岳には登り返さず遠見尾根途中まで雪の斜面をショートカット。2172mピーク近くのテントサイトへ11:50着。テントを撤収し重荷に喘ぎながら、スキーヤで賑わう Gondola 山上駅に14:10。信濃大町温泉で汗を流し、古いスペアタイヤを気遣い時速80kmのゆっくり運転で神戸へ。

景色は良かったのですが、ゴールデンウィークとは思えない吹雪、烈風。なんか気候が変ですね。まだ、左手の指先には違和感が残っています。



山歩きに誘われて

井上知三 5月 8日

この連休前半に松下さんと良い天候に誘われて比良山系の釣瓶岳に山歩きしてきました。山本・大森さんたちの山行きとは天と地の差がありますが烈風も無くのんびり歩いてきました。早朝、出町柳駅の市営バスの乗り場に行くとき長蛇の列、臨時バスが停車していました。【山ブームですね】

7:45発の超満員バスに揺られ朽木栃生迄向かう途中 武奈ヶ岳へ向かう人たちが坊村でどっと下車。その後、私たちともう一人になり貸し切り状態、出町柳を出発して1時間20分朽木栃生バス停に到着。

9:15分 身支度を整え釣瓶岳登山口より樹林帯を僕たち二人ただひたすら登りイクワタ峠北峰緩線上を釣瓶岳へこのあたりでやっと二組のパーティーに出会いました。釣瓶岳へは11:25に到着、そのまま武奈ヶ岳へ釣瓶岳とは別世界大勢の人でびっくりしました。人目を避け昼食その後は金糞峠～アオガレ～イン谷口～16:20に比良駅に到着、一路大阪へ。

反省会という楽しい飲み会后解散。久しぶりの比良山系の山、天候に恵まれ楽しい山歩きでした。松下さんに感謝・ありがとうございました。



スズコ採り

大森雅宏 5月15日

氷ノ山のスズコ採り。いいお天気の日曜と日曜。藪の中でごそごそしたのはほんの1時間くらいでしたが、節々が痛い。スズコは虫食いもなくいいのがたくさん。オマケのコシアブラは細引きで高い枝を手練り寄せて。3名あわせて180歳を越えるイトシをしたのが、童心に戻ってきやあきやあ。

毎回お世話役の山本リーダー、そのほかご参加のみなさん今年もありがとうございました。



Re: スズコ採り

山本恵昭 5月15日

今年は季節の移り変わりが早いので、例年より3週間ほど前倒しで行いました。読みはドンピシャ当たりで、虫も少なく、太くて美味しいスズコが一杯。短時間で、ザックザックと採れました。おまけにコシアブ

ラ。ああでも無いこうでも無いとみんなで知恵を絞り、共同作業でゲット。見事、天婦羅ネタが一品増えました。

夕方からは、皮むき作業の後に、山菜三昧。タラノメ、コシアブラは天婦羅に。スズコは、丸焼き、スパゲッティ、天婦羅、マヨネーズ和え、ワサビ和え、山椒和え、味噌鍋とフルコース。お酒の方も、ビール、日本酒、焼酎、ウイスキーとこちらもチャンポンフルコース。酔いもまわって、楽しく談笑。とても贅沢な時間を過ごすことができました。

ご参加の皆様、有難うございました。

氷ノ山の神大ヒュッテに

山本恵昭 6月5日

4日(土)5日(日)、神戸大ヒュッテのメンテナンスのお手伝いで氷ノ山に行ってきました。

神戸大OB5名、学生5名、新部長の河端先生と一緒に、小屋の掃除と補修、枯木を集めて薪ストーブ用に切断など楽しく作業し、夜は宴会。今年、神戸大の新入生は4名、みんな感じのいい学生でした。河端先生は、三重大山岳部出身で、定年退職された山形先生に代わって今年から部長に。

作業の合間に、スズコ採り。でも、早くもシーズンほぼ終了でした。大きくなりすぎて、スズコというよりスズ兄ちゃんという感じ。たまに小さいものを見つけても、ほとんど虫に食われていました。スズコキャンプを5月半ばに実施しておいて大正解でした。

伊予富士+讃岐うどん

山本恵昭 6月12日

梅雨の合間を使って、妻と四国の伊予富士に行ってきました。

10日(金)我が家のすぐ近くの垂水JCから明石大橋を渡り、淡路自動車道、徳島自動車道、松山自動車道と高速道路を乗り継いで、伊予西条ICまで3時間ほど。194号線を南へ進み寒風山トンネルを抜けて、

道の駅木の香で車中泊。瀬戸内海のジャコ天と太平洋のカツオ生節をあてに、西条の酒「御代栄」原酒でほろ酔い。

11日(土)旧寒風山トンネル南口の登山口には売店があり、トイレも水場もある。6:00に出発し、樹林帯の急な道を登るとササ原の桑瀬峠に到着6:50。ここからは、展望を楽しみながら稜線散歩のはずであったが、次第にガスが湧いて視界20mほど。天気予報は晴れなのに、高知側からの湿った風がこの稜線を超えるとき霧となるようで、景色も何も無い。ウグイスの声に導かれながらササ尾根の道をひたすら辿る。最後に急な登りを終えると、伊予富士山頂の立札が立っていた8:20。コーヒーを沸かしおやつを食べて、来た道に戻る。結構登ってくる人がいて驚いた。10:30下山すると、駐車場は一杯になっていた。西条駅近くで昼食後、湧き水の「うちぬき」をめぐる散歩。町中に清流があり、いろいろな魚が見える。カワセミもいた。湧き水の水飲み場もあり、良い感じ。温泉「武丈の湯」で汗を流し、香川県へ移動。讃岐うどんを観音寺市「つるや」と津田の松原SAで食べて、一路神戸へ。

案外、四国は近かったです。思っていたより谷深く山は急峻。しかし、かなり上まで林道が通じているので、そこそこ気楽に歩くことができました。

もっと讃岐うどん巡りをするつもりでしたが、時間が遅くなり閉まっている所が多かったので残念。思い付きで出かけたので、その点下調べ不足でした。



タンザニアにいます

山本恵昭 8月7日

タンザニアにきています。キリマンジャロになんとか無事登って、野生動物を見ようとしてサファリ中です。ゾウやキリンがすぐ近くで見ることが出来て、とても迫力があります。アフリカ、面白い！



タンザニア

山本恵昭 8月12日

昨日、無事に帰宅しました。
急に長期休暇がとれることになり、航空券と到着日のホテルをとって7月28日出発。現地で旅行社を回って値切り交渉。そこそこの値段で6日間マチャメルートキリマンジャロ登山を契約。たまたま一人で来ていた日本人と二人組に。いろいろ話を伺っていると、先鋭的な登攀クラブ蒼氷の代表、戸田さんであることが判明。奥鐘西壁や丸山東壁、ヨセミテなどの山の話、登場人物は山野井氏など雑誌の世界の方々。楽しく過ごさせていただきました。実際は、高所では腹を壊し下痢続きとなり、飲まず食わずの ATTACK。ガイドのサポートを受けて、なんとかウフルピーク 5895m にたどり着くことができました。意外と山頂部の氷塊が大きくてびっくり。

下山後は、野生動物を見にサファリツアーに参加。タランギレ国立公園、マニャラ湖国立公園、ンゴロン

ゴロ保護区を2泊3日で訪れ、ゾウやキリン、ライオン、ハイエナ、シマウマ、バッファローなどすぐ近くで見ることができました。威嚇のために一頭のゾウが車の2mほど横まで近づいてきて、足を止めて睨んできたときには心臓ドキドキでした。子供の頃の憧れの世界が現実のものになって感激！

キリマンジャロコーヒー発祥の地、モシ村のユニオンカフェでコーヒー飲んで優雅な気分になり、街角の焼肉屋でインパラのアバラ肉にかぶりついて満悦。アフリカ、奥が深くてまた行きたくくなりました。



暑気払い

塩崎将美 8月28日

有志が集まり暑気払い。飲み放題の3時間、大いに盛り上がりました。





若狭ウツロ谷

山本恵昭 9月19日

大森さんと、秋の連休はまた黒部方面の沢登りに行きましようかと企画していました。ところが、台風と秋雨前線のダブルパンチで雨の予報。黒部は諦めて、もう少しこじんまりと若狭のウツロ谷へ行ってきました。

17日(土)6:00に神戸を出て、舞鶴自動車道の若狭三方IC経由で、赤坂山登山口まで3時間強。準備を整え、登山口すぐ横から入渓10:00。砂防ダムを3つ越えて、最初の10m滝。難なく登れそうと取り付くが、ヌルヌルなうえに足が上がらず3歩目から先が登れない。久しぶりの岩登り、自分の登攀イメージと実際の技術力とのギャップを修正せざる得ない。すぐに諦めて高巻き。その後、次から次から出てくるお手頃な滝を登ったり巻いたり。途中から本来より北側の谷に入っていたようで、藪を漕いで三国岳山頂に13:00。ここからは、高島トレールを辿り、琵琶湖を眺めながら明王の禿、赤坂山を経て、登山口へ15:30。

三方温泉きららの湯で汗を流し、美浜海岸のトイレ軒先を借りてテント泊、宴会。夜半に雨、山中でなくてよかった。

18日(日)小浜漁港で釣り人見学。干物など海産物を買って、朝から寿司を食べて、昼頃には帰宅しました。

秋の「駒王」集会

渋谷一正 10月10日

10月8日(土)9日(日)、木曽福島「駒王」で秋の集会を18名の会員を迎え行いました。

8日(土)は18時より平井会長の挨拶、鈴木頼正長老の乾杯で始まり、にぎやかな一夜を過ごしました。9日(日)は7時より朝食、その後、記念写真、部歌を高らかに歌い、解散しました。



三方岩岳

山本恵昭 10月11日

ここ数年恒例の妻との秋の山旅。今年は天気が悪そうなので日帰り登山ということで、展望と紅葉を期待して白川郷の三方岩岳に。

8日夜に家を出て、9日早朝、白川郷着。朝には雨も上がる予報だったが、やむ気配なし。9:30頃、小降りになったので傘をさしてトヨタ自然学校前を出発し、鶴平新道を辿る。柴栗が一杯落ちているなあと思って歩いていると、握りこぶしくらいの実がたくさん落ちている。齧ってみると梨だった。4つほど頂きリュックの中へ。この辺り、熊の絶好の餌場か。ブナ林の急登を終えるとやせ尾根。変化に富んだコースであるが、期待した紅葉にはまだ早く、霧に包まれて展望は無し。何の変哲もない野谷荘司山に12:30。少し戻って、上り下りを繰り返して三方岩岳へ13:30着。相変わらず展望全く無し。ひたすら黙々と下り、ナメコを少々収穫して、ホワイトロード料金所に16:30着。

白川郷の温泉に入り、地酒を買って道の駅白川郷で車中泊。最近、車中泊の車が増えたもんだ。

10日早朝の合掌造り集落を散歩し、一路氷見漁港へ。遅い朝食に寿司を食べて、神戸に帰宅。

今年は熊の出没が多いとのことなので、ネコに鈴では有りませんが、妻に鈴。自分で付けるとうるさくて鬱陶しい鈴ですが、妻につけるとこれがなかなか優れ物。少々離れても、どの辺にいるのか、動いているのか止まっているのか、すぐわかる。

梨をひろって、紅葉なし、展望なしと「なし」尽くしの山行となりましたが、それなりに楽しむことができました。

タラブタキノ鍋キャンプ

山本恵昭 11月7日

今年のキノコは苦戦、カニ無しという、残念な結果に。

5日大森さんと7:30頃から藪を漕いで奥の森に入るも、ナメコはほとんどなくやっと見つけたのは幼菌がポツポツ程度。ナラタケやクリタケが生えていたりツキヨタケが残っていたりと、森の中は10月中旬の様子。ヒラタケ、ムキタケも少々追加して、山頂で皆さんと合流。快晴のぼかぼか陽気で気持ちはよかったです。キノコの発生が半月ほど遅れている感じです。そういえば春の山菜も半月ほどは早かったですね。夜は、タラ1尾をさばいてタラブタキノ鍋に。

6日ズワイガニ解禁日。0時には花火を上げて出港したとか。しかし、朝食準備をしても港へ向かう車が少ない。「？」。結局、競りは13時からということで、待ちきれず朝食後に解散。スーパーでなべ用にタラ、刺身用にアジとアオリイカ、干物のカレー、但馬牛スジ肉等、爆買いでカニなしの鬱憤を晴らして帰りました。

ご参加の皆様、タイミングの読み違いですみませんでした。

池内君

塩崎将美 11月7日

開店祝いに来てます。池内君、頑張ってます。



池内 続き

おーもり 11月7日

塩崎さんの続き。

池内君の店に来ました。阪急京都線 上新庄駅近く。テントのエssenとはテキパキさもテイネイさも違います。美味しくいただきました。

お礼

池内友宏 11月8日

武田さん塩崎さん浪川さん大森さんそして安井さん昨日は遠いところありがとうございました

お祝いももらってしまって、いつもお世話になりっぱなしで感謝の言葉もございません

段取りがおぼつかなくお見苦しいところもあったと思いますが、料理はお口に合いましたでしょうか？鶏しかありませんがまたお越しくださいます。

上高地

越田和男 11月12日

山仲間数人と初冬の上高地を訪ねた(11月8日)。生憎の天気で前穂、奥穂は雲の中だったが、新雪を被った明神、六百山、霞沢、焼岳などが楽しめた。大

正池は小っちゃくなって、立ち枯れの木の数もほんの数本のみ。浚渫のプラントが焼岳をバックにした様(写真添付)は、アラスカあたりの砂金掘りの光景が連想された。

物好きもいとこだが、河童橋のたもとで、寒風に身を晒して、中からワインで温めたりしたが寒かった。それでもこんな楽しみ方が出来ることを喜ぶべきか。それにしても、11月のこの時期に結構な数の観光客があり、ほぼ近隣諸国からの団体客だったのにはびっくりした。



(無題)

谷 12月18日

忘年会お疲れ様でした！

石原さん、段取り等々有難うございました！一先ず写真アップします。



28年忘年会

赤田正和 12月19日

こんにちは……昨日恒例の忘年会開催。谷君少し遅れて、総勢14名出席でした。「漁場の宴」飲み放題は充分元をとりました……学生時代にタイムスリップし制限時間まで盛り上がりました。とりあえず塩崎大兄からメールきましたので送ってみます。写真添付します。



冬枯れの奥日光山旅

山本恵昭 12月30日

横浜に住む娘のところを訪ねるついでに、妻と奥日光で車中泊山旅をしてきました。

12月24日、湯ノ湖の環境省駐車場で車中泊。トイレもあるけど、寒くて駐車場の路面ツルツル。

25日、湯ノ湖湖畔と戦場ヶ原周回。雪が少なく、積んできたスノーシューやワカンの出番なし。快晴の中、広々とした風景が目に優しい。硫黄の香りがたなびく湯元温泉へ入浴。

26日、中禅寺湖畔の半月山へ。展望抜群。中禅寺湖を挟んで、目の前に男体山、ちょっと遠くに雪で真っ白な白根山。午後から東照宮参拝。娘の所へ移動中、首都高速で遭難。地名もよく知らず、右往左往。高速を降りたり、また乗ったり。どうも都会は苦手です。

おまけで、三浦半島三崎のマクロ祭りと北齋的に富士山遠望。今まであんまり行ったことがありませんでしたが、関東方面も面白そうな山がいろいろありますね。



クビツアンポ現流域学術登山隊2007

報告書について

谷 勇輝 12月30日

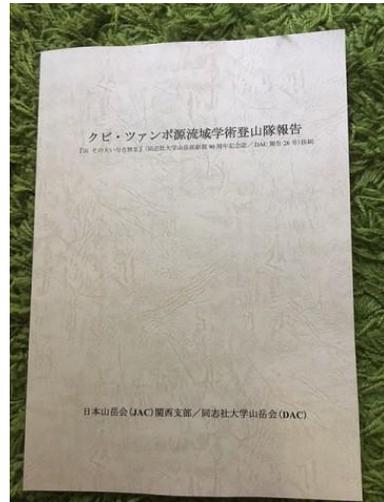
首記、2007年(私が大学4回生)の時、同志社大学山岳会の遠征隊に甲南大学山岳部員として参加しました。

その時の報告書なのですが、きちんと支援して下さった方々へカタチあるものでご報告できていなかったのが実情です。大変申し訳ございませんでした。何で今更? ?と感じられる方もおられるかと思いますが、諸般の事情により約10年の月日を経て発行となりました。

肝心の内容ですが、一般的な単なる遠征報告書に加えて、参加した各隊員が10年後の今、社会人となり、どのような「山」人生?を送っているのかも記されております。

登山報告書については、数量限定(20冊)ですが、先着でご希望の方が居られましたら、この掲示板または直接私までご連絡いただければ郵送もしくは来年の雪見会に持って行きたいと思えます。(連絡手段は掲示板、電話、携帯メール、PCメール、LINEなんでも構いません。)

余ってしまった場合は総会に持って行きたいと考えます。また、データでもお渡し可能ですので、ご希望がありましたらお寄せください。



八ヶ岳ラウンド

谷 勇輝 12月30日

先週、雪山の足慣らしに12/20-21の一泊二日で八ヶ岳ラウンドに行ってきました。八ヶ岳西面の赤岳鉱泉から入り、硫黄岳→横岳→赤岳とラウンドしてきました。同業の仲間も天気がよく八ヶ岳の概念図が良くわかったと。

約10時間行動は疲れましたが、平日で貸切状態の八ヶ岳を大いに堪能することが出来ました。



雪の摩耶山

山本恵昭 平成29年 1月15日

朝起きると、屋根も地面も真っ白。これは行かねばと、車で摩耶山へ。新穂高湖からシェール道を下って、桜谷道を登り、掬星台へ。木々の枝という枝が凍り付いて美しい。風もあり、じっとしていると寒いが、ラーメンを作って温まる。水をこぼして、しばらくしたら凍りついた。



雪見会

谷 1月23日

おはようございます。今年の雪見会は、仕事の都合で日月参加となりました。松本の友人宅にお邪魔した後、前田館に向かうとすでに新雪15センチ積もっていました。

今朝は新雪30から40センチは積もっています。入れ違いで帰られた皆様、また来年よろしくお願いたします。昨夜のお酒がまだ少し残っていますが、朝食後直ぐに滑りに行って来ます。

雪見会

山本恵昭 1月24日

飯田様、今年もお世話になり、有難うございました。土曜日、ゲレンデから前田館へ帰ってくると、朝に止めた車が半分雪に埋まっていたびっくり。



日曜日、午前中しか滑れないので、シール歩行なしのプチバックカントリースキーへ。車で白馬コルチナ国際スキー場のホテルグリーンプラザ白馬の駐車場へ。リフト2本乗り継ぐと、もうゲレンデトップで稗田山山頂は目と鼻の先。でも、時間がないのでシールで登らず、リフト終点から南面のブナ林へ滑り込む。膝上の極上深雪だが、結構滑り荒れていて残念。あっという間に、以前小西さん達と来たことのある黒川沢へ降り立った。あとは、良く滑り込まれた跡をジェットコースター状態で白馬乗鞍スキー場へ到着。

白馬コルチナススキー場への周回バスもあるようだが、時間が合わない。チケット売り場のお姉さんに教えてもらった通りに、リフトに乗ってひたすら左へ滑走を2回繰り返すとホテルグリーンプラザ白馬へ戻れた。お洒落なでっかいホテルで、山の格好で中へ入るのは場違いな感じ。そそくさと車に戻り、前田館に帰った。久しぶりの山スキーでうまくスキーに乗れず、足の筋肉パンパンでした。

雪見会

飯田 進 1月25日

去年も今年も、小生には単なる雪見会で終わりました。天気が悪すぎる。幹事の日頃の行いの所為かも。ところで山本君、ホテルグリーンプラザ白馬に寄ってながら、そそくさと帰るとは。あそこには広大な湯船と洗い場を備えた、奥白馬温泉美人の湯、というのが

あります。1000円でタオルと手ぬぐいを貸してくれます。今度行かれたら是非浸して下さい。

Re: 雪見会

山本恵昭 1月26日

白馬コルチナ国際スキー場には初めて訪れましたが、結構な急斜面や非圧雪コースが有って面白そうでした。今回は、昼過ぎには前田館を出る予定だったので、ホテルグリーンプラザ白馬はスルーしました。またの機会に、ここのゲレンデで滑り、温泉にも入ってみようと思います。

湘南の里山

越田和男 1月29日

東海道線の二ノ宮駅の裏山に吾妻山136mというのがあり、菜の花と富士の眺めで、今や有名。このところ、2年に一回訪ねてるが、だんだん観光地のようになってきた。登り30分だが、一気に登ると結構きつい。山頂の眺めは、相模湾、伊豆半島、箱根、丹沢など豪華です。



大雪の県北 赤谷山敗退

山本恵昭 2月12日

雪をまとったブナ林を楽しもうと、国道29号線戸倉峠から赤谷山に登る予定で今朝出発。

10:00頃、トンネル入り口の駐車スペースに車を止める。なんと除雪道路から雪の壁3m。何とか登りきって林道をラッセルするが、スノーシューを履いても腰

まで潜る。踏みつけてはストックで雪を落とし、また踏みつける。こんなラッセル、現役の頃にした思い出が……。結局、スノーシューにトラブルが発生し、3時間かかって300mほど進んだ所で敗退。

本当に大雪でした。



観梅

塩崎将美 2月18日

少し肌寒い中、保久良神社の梅林に集まりました。持ち寄った肴をあてにビール、日本酒、焼酎をグイグイ。歩いてる人に”朝からずっとまだやっていますの”と声をかけられるほど延々とワイワイ盛り上がりました。持ってきた酒が無くなってやっとお開き、千鳥足で下山。岡本梅林に寄って安井宅で二次会、飲みすぎましたが楽しい酒でした。毎年幹事をやってくれる安井さん、ありがとうございました。



神戸大氷ノ山

山本恵昭 2月26日

氷ノ山からハチ高原へのぶん回しコースに神戸大学生・若手OB+山田さんに行ってきました。

2月25日好天の中、氷ノ山国際スキー場から東尾根経由で神大ヒュッテへ。学生はワカン、それ以外は山スキー。神大ヒュッテは雪の山と化しており、若手が入口を掘り起こしてくれる。中は薪ストーブでほっこり。

26日朝から快晴。ブナの森が赤く染まる。山頂経由、滑ったり登ったりを繰り返して、ハチ北スキー場下のねむの木山荘へ。さすが現役学生、ワカンなのに前後しながらもスキーと同じペースで到着。



乙妻山 たどり着けず

山本恵昭 3月21日

大森さんと久しぶりの山スキー。黒姫近くの乙妻山を目指して雪洞1泊で行ってきました。

3月18日8:00大橋発、林道から尾根に上がって11:00佐渡山のコルへ。北面を通称中妻山からの谷の出合まで下る。途中ブナ林にカンバやカツラの巨木が混ざって、とても良い雰囲気。12:00正面に中妻山が見える台地斜面に雪洞を掘る。2か所から掘って中で合流。2時間半かけて快適なホワイトホテルが完成。夜はウイスキー。

19日3時頃から結構な降雪。夜が明けるころには小雪となり、前日の固い雪の上に新雪が20cmほど。大

森さんは、降雪に気をそがれて雪洞待機ということに。

まだ雪がちらついているが、天気予報は晴れとのことので7:00発、谷の中を忠実につめる。上部は斜度も増しクラストした上に積もった新雪にシール+クレーでもズルズルとずれて体力を奪われる。左の小尾根に上がって、最後に無木立の急斜面を超えると11:45稜線の中妻山へ出る。

乙妻山がガスの合間に見えるが、風も強く視界も悪いので、ここから滑り降りることにする。最初は風でクラストしたアイスバーンとモナカ雪。スキーが引掛かり滑りにくいが、斜度がきついのでこけないように慎重に。少し下り、疎らにダケカンバが生えた辺りから広く開けた谷の上部は、パウダースノー。大回りですピードに乗って滑ると、顔にかかる粉雪がとても気持ち良い。それも束の間、谷の中間部より下は、今朝はあんなにふかふか雪だったのに、今は期待外れの重くへばり付く深い湿雪。さらに、時々デブリ跡が調子を狂わせる。スキー滑降はひたすら下へ向かう労働となり、12:40バテバテで雪洞へたどり着く。

休憩の後、13:30荷物を詰めて来た道に戻る。足がパンパンで大森さんについて行けず、木々の写真を撮りながらしばし休憩。佐渡山のコルからはザラメ雪で案外滑りやすい。林道へ出るとあとは直滑降で15:30大橋へ。

乙妻山へはたどり着けず、雪質に翻弄され疲労困憊の山行となりました。しかし、終わって見ればそれも楽しい。久しぶりに大森さんとの雪洞泊もまた楽しい。いくつになっても、なかなかやめられない。



ホームページから II

塩崎編集長の

海外写真日記

キルギス

平成28年7月2日

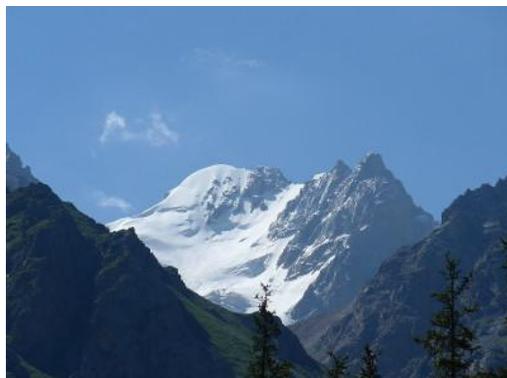
米山さん、越田ご夫婦とキルギスの首都ビシュケクに居ます。



キルギス2

7月 3日

アラアルチャ国立公園でハイキング。自然を満喫しました。



キルギス 3

7月 6日

イシクル湖の南カラコロに居ます。昨晩はウイグル人の家庭を訪問、夕食をいただきました。彼らは100年位前に渡ってきて言葉習慣を守り生活している様です。饅頭に近いものパイ生地に肉を包んで焼いたパン？、デザート甘いお菓子。美味しく食べました。別の部屋ではラマダン明けを家族親類友人達と祝ってました。



キルギス 4

7月 6日

今日はジェティオグス溪谷をハイキングするも雨ですぐ引き返しユルタで昼食、鷹狩りを見学しました。



キルギス 5

7月 7日

早起きは三文の得、昨日までの天気が嘘の様に晴れました。

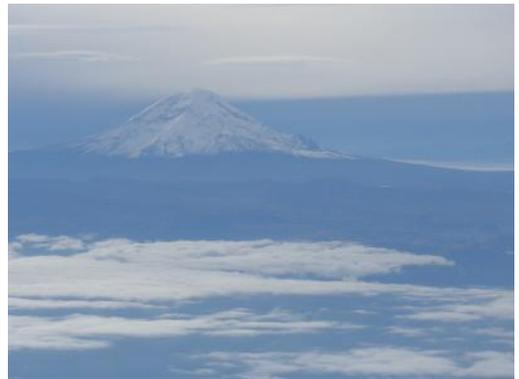


アンデス

10月 3日

ガラパゴスに来てます。

キトーを飛び立ってすぐ南に見えた山です。なんて山かどなたか分かりませんか。



Re: アンデス

越田和男

10月 3日

アンデスの名峰コトパクスン火山 Volcan cotopaxi 5896m と思われます。キトーの南50kmです。もっと南へ行けば、かのウインパーが初登頂したチンボラソ 6310m がありますが、写真の感じからして、コトパクスンでしょう。南米旅行楽しんでください。

Re: アンデス

10月 7日

綺麗な山の名前が分かりスッキリしました。有り難う御座います。ネット環境悪くお礼の投稿遅くなり申し訳ありません。毎日日帰りツアーに参加して楽しんでます。

ガラパゴス

10月 7日

赤道直下なのに朝晩は寒いです。
昼も20度ぐらいで海に入るのをためらいます。
昨日私が砂浜に逃げ上がった直ぐ後に娘はペンギンと亀と共に泳いだと興奮してました。私は陸から眺めただけ残念。



ガラパゴス 2

10月 7日

今日サンタクルス島からサンクリストバル島に移動しました。このホテルのWiFiはなんとか使えます。この街はアシカの数が非常に多く日本なら犬のフンに注意ですがここではアシカのフンに注意です。

ガラパゴスも後2日、明日はシュノーケルで サメを見るツアーに参加します。ウェットスーツを借りたのでなんとか寒さに打ち勝ってサメとご対面したいと思っています。



ペルー 10月10日

今朝リマからクスコへの飛行中に見えた山です。残念ながら我々の反対側で写真を撮るのに苦労しました。今はマチュピチュです。蚊が多すぎて苦労しています。朝飯付き一部屋5千円の宿、開けっ放しの店先で宿のオバちゃんと交渉中に手足を10箇所以上刺されました。何故か顔は無事。日本の蚊と違いすごく小さいですが刺されると痒い痒い、薬をクスコに置いてきてしまったので処置無しです。



Re: ペルー

越田和男 10月10日

今回の写真の山座同定は自信なし。左機窓にヴィルカバンバ山群やウルバンバ山群の山々が見えたはずです。私はマチュピチュ山(遺跡の南、ワイナビチュの反対側のピーク3050m)の頂上からサルカントイ6271m、フマ・シリヨ6070m、列車の車窓からヴェロニカ5682mを認めました。貴兄の写真の3座もこんなところかも。

私がマチュピチュを訪ねたのは5月でしたので、蚊の被害なしで快適でしたが、昔アメリカのワイオミングで蚊柱に追いかけられたり、テキサスでデッカイ蚊にブチブチに刺されてエライ目に遭ったのを思い出しました。ビールを飲むとよく刺されるそうです。刺されてもビールでしょうけどね、やっぱり。



マチュピチュ

10月11日

雨のマチュピチュに行って来ました。

なかなか取れない1日400名の人数制限の登山許可、ワイナピチュはダメでしたがマチュピチュ山の許可が取れてました。朝から雨、雨の山歩きは私の趣旨に反しますし相棒の調子が良くないこともあり中止。ノンビリ9時頃カッパを着て往復24ドルのバスの長い行列に並びました。急な道を30分遺跡入口に到着すると雨がポツポツにやがて止みなんとか濡れずに見学できました。眺めたマチュピチュ山は結構な高さ、雨で良かったな感じたのは歳のせいでしょうか。



南米

10月14日

まだクスコでくすぶって居ます。嫁さんが高山病、昨日ついに病院へ朝8時から夕方まで酸素吸入と点滴、70だった血中酸素濃度が90まで回復。今日は街歩きができ食欲も出普段に戻ったように見えます。去年のスイスは元気に歩いたのに今年は飛行機の長さに疲れたせいでしょうか？

チチカカ湖からウユニへバスで行く予定がチチカカ湖を残念ながら諦め飛行機でラパス経由でウユニへ飛ぶことにしました。さらに高度を上げるのでちょっと心配です。高山病は又ぶり返すのでしょうか？



ウユニ

10月18日

ウユニ発2泊3日のツアーに参加してラパスに下りて来ました。相棒も高山病再発せず元気に楽しみました。砂漠の様な所をアルゼンチンとチリの国境近く迄南下しました。5000m代の山ゴロゴロなにせ走ってる所が4000mを越してます。山の名前が分かった山はオジャグエ火山だけでした。真っ青なラグーナ・ベルデ、赤い色の不思議な湖ラグーナコロラド、フラミンゴ勿論ウユニ塩湖、充実した3日間でした。



ラパス

10月19日

ラパスは標高3593mと言われてますが町の一番上にある空港は4061m、すり鉢状の町です。市民の足としてケーブルカーが3ラインあります。イエローラインに乗り頂上駅へ、感激、白いイリマニ山6439mとワイン・ポトシ山6088mが綺麗に見えました。これで片道45円ほど安さにも感激しました。旅の最後に目の保養をしました。



残しておきたい カキコミあれこれ

長い間、有難うございました。

柏 敏明 平成28年4月25日

先日の山岳会総会で、甲南山岳会のHPの管理者が、塩崎さんから谷さんへ交代される事を知りました。HPの立ち上げから、維持、管理まで、塩崎さんのお力がなければ、甲南山岳会のHPは存在はなかったと思います。他大学のOBから甲南さんの掲示板は、話題が豊富で、家族的ですなど羨ましがられていた言葉が象徴する様に、素晴らしいHPでした。余り投稿出来なかったのは申し訳ありませんでしたが、毎日、開けるのが楽しみでした。人にはわからないご苦労もあった事と存じます。改めて、塩崎さんに御礼申し上げます。有難うございました。谷さん、お仕事の傍らでの維持、管理。大変でしょうがこれから宜しくお願いします。

シオさん、交替ですか。

kannroku 4月26日

山岳会の会合に顔を出さない私にとって、唯一の情報源でした。甲南山岳会HP本当に素晴らしいHPだと思います。立ち上げ時には、大変な御苦労なされた由。谷さんへと。フレッシュな谷さんが新しい感覚のHPにしてくれることでしょう。シオさん本当にありがとうございました。 森本

田中孜君の絵画

越田和男 6月17日

山岳部同期の田中(お星さん)の作品が佳作入賞し、上野の東京都美術館で開催中の「二元展」で展示されていると聞き、観に行きました。展示作品は油彩が中心で、いずれも100号以上の大作揃いで、先ずは圧倒されました。小生は美術音痴で、鑑賞力も

ありませんが、絵を観るのは好きです。お星さんの「早春」と題する作品2点も迫力のある風景画で、残雪の山を背景にした湖岸を描いたもの。しばし見とれてしまいました。

上野は明後日で終わりますが、大阪市立美術館でも来月(7月5-10日)展示されます。お時間あれば是非足を運んで下さい。お勧めです。

ホームページ管理者変更のお知らせ

谷 勇輝 6月24日

大変ご無沙汰しております。改めまして、平成18年理工卒の谷です。

今年の総会(私は生憎仕事のため欠席)で、甲南山岳会ホームページ管理者が塩崎さんから谷へ変更されました。今後、アルバムへ写真アップご希望の方は、谷まで写真送信お願いいたします!!その他、紀行文など掲示板へ掲載ご希望の方は谷までデータ送信お願いいたします!!

塩崎さん、長い間ホームページの管理者として、掲示板の管理、写真のアルバムへのアップ、サーバー管理等々有り難うございました。塩崎さんから徐々にホームページ管理の引き継ぎを受けております。

まだまだ不慣れではございますが、どうぞ宜しくお願いいたします!!



田中 孜君の絵画-2

牧野 宏 7月 7日

6月17日越田君の掲示板の続きです。田中孜君(お星さん)の入選作品を鑑賞してきました。

大作ばかり300余点の中、さすがお星さん、早春の京の湖が輝いていました。

ほしさん、昇格おめでと。大阪市立美術館、10日(日)まで展示されています。

映画「ラサへの歩き方」

越田和男 7月28日

観てきました。小生好みのロードムービーでした。登山とは関係ないですが、チベットや辺境の旅に興味をお持ちの方にはお勧めです。東チベット・マルカム県の山村から1200キロのラサ、更に1200キロのカイラスまでを1年かけて五体投地で巡る、11名の村人たちの現代版巡礼の旅。フィクションながら俳優使わず実際の村人の演技で、タレント使ったドキュメンタリーと称する安っぽいTV番組よりずっとリアル。カイラスをバックにした鳥葬の場面が美しい。

著名な中国人チャン・ヤン監督の作。日経夕刊の映画評で四つ星。東京は渋谷の「イメージフォーラム」で上映中。神戸は「神戸アートビレッジセンター」で上映中または上映予定。

映画「ロング・トレイル！」

越田和男 8月12日

観てきました。私と同世代の後期高齢者、久しぶりのロバート・レッドフォードが出演。加山雄三よりだいぶ老けてますが、活躍を見るのは楽しいですね。訳あって老人二人が行く全長3500キロの「アパラチアン・トレイル」。小学生グループに追い抜かれたり、単独行のおしゃべり女性に辟易して捲いて逃れたり、善意の塊のような屈強な二人連れの若者に助けられたりとコメディ仕立てに描いた作品です。

半年前に観た「パシフィック・クレスト・トレイル」を行く『わたしに会うまでの1600キロ』と同様、アメリカのトレイル文化がほほえましく垣間見れます。お盆の混

雑を避けて、遠出せずに家に籠っている方は映画館にお出ましあれ。東京はヒューマン・トラストシネマ渋谷でやっています。

【重要】ホームページ引越しました！

谷 勇輝 8月23日

ホームページ管理人より。

今年の9月末以降、このままでは、甲南山岳会ホームページが見れなくなってしまう！

つきましては、現在甲南山岳会ホームページをお気に入り登録されている方は、9月末までに下記URLにアクセスしていただき、お気に入りを再度登録して頂きますよう、よろしく願いいたします。尚、ホームページの内容等一切変更ありません。

(新)甲南山岳会ホームページ URL はこちら↓↓

<http://konan1923.sakura.ne.jp/>

・・・と言いますのも、現在契約しているレンタルサーバー(ニフティ)が9月末でサービス中止に伴って、新サーバー(さくらインターネット)と契約したため、甲南山岳会ホームページのURLが変更されたからです。

その結果、お気に入りに登録されている方はURLを変更していただかないと9月末以降は甲南山岳会ホームページが見れなくなってしまう。

お手数おかけいたしますが、よろしく願いいたします！ <http://konan1923.sakura.ne.jp/>

Re: 映画「ラサへの歩き方」

山本恵昭 9月22日

越田和男さんへのお返事です。

お勧めの「ラサへの歩き方」を観てきました。

2009年のカンリガルボ遠征の時に、我々が車で通った峠や川沿いの村が映像に出ていたように思います。その時にも、トラックがバンバン走っている横をぼろぼろ格好で五体投地をしながら巡礼をしている人を見かけました。ポタラ宮殿の場面も、あの仏

像の所やこの広場に行ったという感じで懐かしかったです。参拝の方が紙に包んだ黄色い塊を供えていました。最初は何か分かりませんでした。仏像の近くに行って判明しました。ほんのり良い香りが…。チベットでは、バターに芯を立てて燈明にしています。ジョカンというお寺の場面もありました。私も下山後に訪れましたが、中に入るには結構な参拝料が必要だし、周辺を迷彩服の兵士が小銃を構えて巡回しているので、信仰とはかけ離れた雰囲気でした。

チベット仏教の信仰とは関係が薄い我々のような外国人観光客は簡単に入って見学できるのに、本当に深い信仰心を持ち巡礼で1年ほどかけて来ているチベット人達はお金がなくて中には入れず、門の外でひたすら五体投地を繰り返してお祈りしていた光景が、強く印象に残っています。

Re: 山の映画 メルー

越田和男 12月18日

飯田 進さんへのお返事です。

> この暮れに、MERU(メルー) という山岳映画が封切られます。

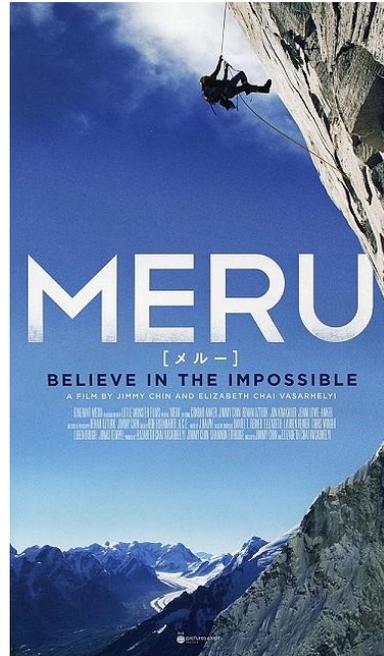
> 内容は、インド北西奥の、カンゴトリ山群のMeru中央峰の(6660m)シャークスフィン峰登攀。

> 2008年コンラッド率いる隊が、100m残して敗退。三年後自身でカメラを持ち込んでの再挑戦を映画にしたもの、だそうです。どえらい岩峰だそうです。

> 12月31日全国で一斉封切り、ピカデリー系。

ご紹介の映画、機会があり、封切前に観て来ました。よかったです。100%ドキュメンタリーの登攀映画です。主役三人のうちリーダー格のコンラッド・アンカーは、1999年にエヴェレスト北面で、1924年に行方不明になった彼のジョージ・マロリーの遺体を発見した人物といえば、思い出す人もあろうかと思えます

が、なかなかの面構えで迫力あり。監督にしてクライマー、そして撮影もこなす、ジミー・チンは中国系アメリカ人でナショナル・ジオグラフィックの山岳カメラマン。トップ・クライマーの登攀ぶりを、巧みなアングルでとらえたカメラワークがたっぷり楽しめます。スタジオ参加で解説するのは、『空へ』の著者、登山家にしてジャーナリストのジョン・クラカワー。これもと見どころです。



山の映画

越田和男 12月31日

また一年が過ぎ去ろうとしています。今年は結構山の映画を観たような気がします。登った山を列挙するのは恥ずかしいので、山関係の映画を下記します。

2月 エヴェレスト・神々の山嶺

5月 アメリカ・ワイルド

7月 ラサへの歩き方

8月 ロング・トレイル

12月 メルー

で、何が言いたいかわかりませんが、「メルー」が別格でした。

本日封切。ご覧あれ。

山以外では、「ハドソン川の奇跡」が抜群でした。

赤松二郎先輩の回想

阿部康彦 3月13日

私のリハビリ施設に赤松二郎大先輩が来られました(97歳になっておいでです)。リハビリ中に昔の山行や旧制高校の思い出を語って下さる事が増えて参りました。甲南山岳会並びに、日本の山岳史黎明期のとても貴重なお話と思い、ご本人、ご家族の了承を得ましてこのサイトに投稿させて頂く事と相なりました。

①クリスチャンフッパーの思い出

ドイツ人講師のクリスチャンフッパー氏は鷲尾頭先輩と仲が良い方で、緑の余りないかつての芦屋ロックガーデンを彼女同伴でよく散策されていたというお話。

②中川政次郎氏の思い出

ジャンダルムなど穂高周辺のアタックベースとして、飛騨川に連なる白出沢に例年、幕営地を張っていた。テントや燃料、野菜などの食料などは、中川氏に頼んでおく事前ベースにある程度準備して下さり、とても助かったそうである。中川氏は白出沢周辺にあった小さな集落に住まれ、先輩方のお父さん位の年齢の方で荷担や案内の他、狩猟もされておられるそうである。また鉄砲を担いで山を歩き、野兎をとっておられたそうで、先輩方もその恩恵に与ったそうである。ところで、ご自分たちの食料は何を持って行かれたのですかかと、お尋ねすると阪急で缶詰を購入し持っていったそうで、パイン缶の事を一番に思い出されておられました。現在の細かな入山規則と比べると、何と大らかな時代である事か、パイオニア時代の情景が臉に浮かぶようでした。

赤松さんのことで

大森雅宏 3月14日

阿部君ご紹介の赤松さんのことの中、缶詰のことで、赤松さんが一番に思い出されたパイナップルの缶詰、福田泰次さんのアルバムにも出てきます。鹿島槍東尾根を成功してのこと、ベースに戻って「パイカング開ケラレル」とアルバムの説明文にありました。高級品だったかもしれないし、とっておきの一つだったかも、あるいはその両方だったかも。同じときの赤松さんと福田さんの写真(鹿島槍北峰)をご紹介します。

香月さんの担当の看護師さんが横山さんの御嬢さんだったり、奥山さんについてバイトのキャディさんが現役の学生君だったり(すみません名前覚えていない)、狭い阪神間とはいえ少し不思議な感じがします。赤松さん、阿部君のお世話で喜んでおられると思います。

この聞き書きも貴重な記録だと拝見しました。



Re: 赤松二郎先輩の回想

越田和男 3月16日

赤松二郎さんと阿部君との交遊はいい話ですね。年齢差多分50歳以上だと思われませんが、趣味の世界で話し合えるのは素晴らしいことです。赤松さんは

そうとうお歳を召されてからも、かなりハードな山歩きを続けてこられ、「山岳寮」に寄稿されたり、秋の駒王の集まりに出てこられてお話になったりで、我々世代(現80歳前後)のものにもずいぶん刺激を与えて頂きました。97歳で今なおリハビリに励んでおられることをお聞きして感動いたしております。どうかよろしくお伝え下さい。

「中川政次郎」という方のお名前をお聞きするのは初めてです。戦前の甲南の白出沢を中心にした活動でよく名前が出てきたのは、かつて名案内人として名を馳せた「中畑政太郎」で、中尾集落の出身です。多分赤松さんもご存じだと思います。何かのついでに話題にしてみてもは。

終戦直後の食糧難の時代に、春の徳澤小屋で小川守正さん達が出遭い、戦前の甲南を懐かしんでいたとのこと。また、小川さん達の貧しい食料に同情して、味噌汁や岩魚を恵んでくれた話が部報に載っていました。

大森・越田先輩ありがとうございます。

阿部康彦 3月17日

大森先輩の載せてくださった。写真を赤松先輩にお見せしました。その日は記憶に無い様でしたが、3日ほどして福田先輩との記憶が戻られた様で、山岳会でも伝説の福田さん家出事件の事を懐かしそうに思い出されていました。有難うございました。

越田先輩の教えて下さった。中畑政太郎さんの事を赤松先輩にお伝えすると、嬉しそうに「そうやった、その名前や、なんかすっきりした」と言われ中川と中畑と記憶が曖昧になっておられたのがはっきり思い出され、焼岳周辺の峠を越えて中畑氏の家まで行った事を思い出されておいででした。越田先輩の顔は思い出せないながらも感謝しておられました。有難うございました。

赤松さんのこと 続き

大森雅宏 3月17日

赤松さん、1世紀近くの膨大な記憶の引き出しをお持ちですから、検索に3日くらいかかられたのでしよう。思い出されているんなお話をされて、きつといい時間を過ごされたことだと思います。

「施設の利用者のおひとり」ではなく、尊敬できるその道の先輩として阿部さんが接したこと。ご本人はそのことがよくお分かりになっているのだろうと思います。ここはもっと記憶の引き出しを開けていただこうかと、鹿島のメンバー、伊藤文三さんとの写真も添付します。

文三さんは逸話がいっぱいの方でしたでしょう。きつといくつもの記憶の扉が開くと思います。赤松さんは太平洋戦争中、海軍技術士官であったと伺ったことがあります。香月さんのご葬儀の折、海軍式の「帽フレ」の礼でお送りになっていたことを思い出します。阿部さん、お仕事大変ですね。でも感謝している方は大勢おいでになると思います。ではでは。



赤松先輩 ご健在

雨宮宏光 3月18日

阿部君、お仕事ご苦労さまです。赤松先輩は貴兄に出会って昔の山の記憶が甦ったのでしょう。97歳でのリハビリに敬服し、さらに頭(記憶)のリハビリにも効果ありの素晴らしい出会いの状況に感じいました。

話にあったクリスチャン フッパーについては、70周年特別号に平井吉夫君の特別寄稿があります。機会みて、この内容も赤松さんに話されてはいかがでしょうか。

思いだされた飛騨の山人・中島政太郎には、次のようなエピソードがあります。

昭和2年穂高岳山荘が旦那衆の失火から焼失した時、案内人・中島 政太郎は「ワシの責任」といなり、彼の俠気を感じた信濃の山人・上條喜藤次(徳沢小

屋の持ち主)は、これ以後、飛騨の山人・中島が小屋に滞在することを大目に見ていたのです。

1947年3月、小川守正さんたちが北尾根を登攀したとき、中島はカモシカの密猟で徳沢小屋に滞在していました。甲南の「ボンチ」のよれよれの様子を見かねて味噌汁をふるまってくれたそうです。

福田さんの山日記

飯田 進 3月19日

本棚の奥から、フクデンさんの山日記が出てきました。勿論コピーですが、昭和7年夏の徳高、槍の縦走、13年の鹿島槍での極地方登山の試み。そして15年の上高地行まで、スキー合宿やいろいろ綴られています。何方か要りませんか。

甲南山岳会は会員の皆様からの応援と会費で運営されています。

卒業以来ご無沙汰のメンバーも、状況が整えばいつでもご参加いただけるよう、できるだけ「門は広く・敷居は低く」を事務局一同心がけております。会費につきましても、現在は適りなしに現年度の納付をお願いしており、金額も昭和55年から据え置いております。会員諸兄におかれましては諸事情をご賢察のうえ、会費納入に一層のご理解をお願いいたします。

会費年額 4,000円

編集後記

今年も無事山嶽寮を発行出来ました。

原稿を寄稿してくださった皆様にお礼申し上げます。

同時に会員短信をまとめてくれた井上君、ホームページの記事を編集してくれた大森君、両君の協力無くしては発行できなかったと思います。唯々感謝です。

編集後記とは原稿集めの苦労とか記載した記事の感想とかを書くものと思いますが今年はどうな山嶽寮にしようと言う意思も無く誰に原稿を依頼するでも無く、ただ集まった原稿を印刷スタイルにし印刷屋に送るだけの名前だけの編集長で申し訳なく思ってます。

田邊さんが亡くなり追悼文が6件投稿されました。改めてガチャさんの偉大さを感じました。同時に毎年誰かが亡くなり追悼文があれば山嶽寮は続いていくなど不謹慎な事を思ってしまった。ただ追悼文だけの山嶽寮は面白くないでしょうね。

皆さん誰かに追悼文を書いてもらう前にご自身の山の思い出や山岳部の思い出を文章にしてみませんか。投稿お待ちしております。

原稿宛先

塩崎将美

電話

Eメール

山嶽寮 第72号

甲南山岳会

神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学内

2017年（平成29年）10月

編集人 塩崎将美 印刷 (株) 春日